

■ 未来の子どもたちのための新しい学校づくり計画（案） パブリックコメント 意見・回答一覧

通し	意見番号	項目	ご意見	回答	計画への反映	関連ページ
1	1	1	基本的に、一貫の学校に移行する事については賛成です。	魅力的な小中一貫教育ができるよう十分な協議を進めていきます。	無し	
2	21	1	学校再編計画の動画も見ました。分かりやすく、これから自分の子どもを小学校や中学校に入れる親の心配なども含めてよくわかりました。小規模の学校の良さも分かります。しかし、学校が家庭と同じでは良くないと思います。集団の中で喧嘩をして、初めてどのように仲直りをするか、いじめられたらどのように逃げるかなど実体験で学べると思います。以上の理由で私は9年間の義務教育学校に賛成です。早期に実現していただきたいです。	9年間の連続した学びを行うためには、義務教育学校が最適であると考えていますので、早期に実現できるよう進めていきます。	無し	
3	35	1	学校再編計画(案)の説明ビデオを観ました。うちの子は既に高校生ですが、こんな学校に通わせたらと素直に感じました。校舎が老朽化している上、世の中がこんなに変化しているの、それらに適応している学校を考えていくことは当然だと思います。小中一貫教育を行う義務教育学校という新しい学校にも課題等があるかと思いますが、今の学校にも多くの課題があります。我が子が就職して牧之原市で家庭を持ったら、その子供たち(孫です！)はこの新しい学校に通うことになるので期待をしています。夢のある計画となって、通わせたいなあと考えるような学校づくりをお願いします。	この学校再編計画では、子どもたちが通いたい、保護者が通わせたい、さらに教職員が働きたいと思える学校を目指しています。 予測困難な社会を自分らしく主体的に生きることができ子どもを育てるため、さまざまな先進事例を研究し、牧之原市に合った義務教育学校が実現できるよう進めていきます。	無し	
4	58	1	少子高齢化の時代で学校再編は避けられない課題です。2校にすることに関する不安は皆さん抱くでしょうし、細かい検討課題は、まだまだたくさんあると思いますけど、とりあえず2校に再編することに賛成です。	令和4年度からは、学校ごとに「学校施設整備基本構想・基本計画」を策定します。具体的な内容となりますので、皆さんが不安に思われることや課題が解消できるよう、保護者、教職員、地域、そして子どもたちの意見を聞きながら進めていきます。	無し	
5	41	1	学校再編計画が進められていますが、まだ8年後ということもあり、現実的に受け止められないということがありメリット、デメリットもよくわかっていないのが現状です。しかし、学校再編は大きな事だとおもいます。子育て真っ最中の私たちには、何かどのように進められているのかぼんやりしかわかっていません。メリット、デメリットを明らかにして知らせてもらい、アンケートをとるなどして、よく考えて決定し、進める必要があると思います。なぜ学校再編するのか？その意図は純粋に子どもたちの未来を考えて一人として取りこぼすことなく幸せにつながるものなのか？困る子どもは出てこないか？困る教師は出てこないか？とても大切な事だとおもいます。たくさんさんの人生を背負って計画を見直したり進めたりしてもらいたいと思います。	これまでもメリット、デメリットを示しながら検討してきましたが、今後についても、これらを明確にし、デメリットや不安を解消できるよう保護者、教職員、地域、そして子どもたちの意見を聞きながら進めていきます。	無し	
6	61	1	これからの時代対応としても新しく学校の環境を整えて学びやすい環境を目指すというのはとてもいいと思いました。9年制度で良い点も多く感じますが、コミュニケーションを9年の学年でどうとっていくのかが気になります。今の時代だからその怖い面、例えばいじめなどそういったところに関してどういう対応ができるのか、また携帯電話などデジタル面でもどのように取り入れる制限など9年は大きく成長する過程で身につけるものなども変化していきます。それが9年の学年でどのような影響が出てくるのかそういった点も心配です。また希望としては、習い事の環境を今様々色んなところに通わせている方が多いと思いますが、学校のクラブ活動のように新しい学びの場としてそういった習い事ができる環境の整備をして頂いて、子供達の成長に繋げてもらいたいとも思います。新しい学校再編へ希望はありますが、それと同時に不安に感じる点もあります。どうか子供達のがびのがび健やかに学び過ごせる事を第一に進めて頂きたいと思います。よろしく願い致します。	新しい学びの場など子ども主体の学校をつくっていきます。みなさんの不安が少しずつでも解消されるよう、丁寧な情報発信をしていきます。	無し	

■ 未来の子どもたちのための新しい学校づくり計画（案） パブリックコメント 意見・回答一覧

通し	意見番号	項目	ご意見	回答	計画への反映	関連ページ	
7	2	5		当計画案は、学校の存在意義を軽んじている。ただ単に学校教育の場ではなく、そこに住む地域住民のアイデンティティであり街づくりの中心をなす存在である。学校があることにより周辺地域の資産価値が上がり、そこに居住する人がいて住み続けている人が現在もたくさんいることを熟慮すべき。	学校については、さまざまな視点から考えなければなりません。ただし、牧之原市としてこの計画で一番大切にしていることは、「子どもたちにとってどうか」という子ども主体の視点です。Ⅲ-4-「1. すべての子どもが主役の学校」に記載のとおり、「行政だけでなく関係する全員が子ども主体の視点から新しい学校づくりを一緒に進めていく」ことができるように進めていきます。	無し	
8	27	1		新たな義務教育学校がハード面・ソフト面共に特色ある魅力に満ちた学校になり、それを核として、また、期待してUターン・移住する若者が多く住まう活気あるまちづくりを推進していただきたい。自然のロケーションが最高な土地柄だけに、「教育の充実」を掲げればそれなりに若者は集まると思います。裾野市のウーブンシティ建設を参考にハード・ソフトのインフラ整備、学校を取り巻く住宅地の建設、子育て家庭への税制の優遇や様々な支援制度の創設など、全市を挙げた思い切った施策を打ってあげれば20年後の市制も安定すると思います。学校づくりはまちづくり・人づくりの基盤です。新たな義務教育学校とそれを取り巻く住みやすく子育てしやすい環境づくりで、いかに人心を惹き付けられるかがカギだと思います。がんばってください。	学校再編により、通いたい・通わせたいと思われる魅力的な小中一貫校をつくることにより、牧之原市に移住したいと思う若者を増やしたいと考えています。総合計画にも再編計画をしっかりと落とし込み、市の政策として着実に実行するとともに、学校再編だけではなく、さまざまな観点から市として人口増加施策を実施していきます。	無し	
9	40	1	全般(計画全体)	この案は、だれ等が、案としてまとめたのか。教育の専門家、学識経験者(学校教育等の研究者、実践者)などがいて、作成したとは思えない。市の学校のこと、子どもたちのこと、保護者のこと、地域の方々の実態が見えていないし、理解しているとは到底思えない程、内容が貧弱で、説得力がない。空想論に過ぎない。この案ですすめられたら、牧之原の存続に関わる。不登校児が増え、地域も元気がなくなり、若者が離れていき、人口減少がさらに、加速する。現に、転居を考えたり、転居した人もいるようだ。 対策案: ①牧之原市が唱えている「市民と対話と協働の新しい学校づくり」を目指して欲しい。「市民への説明会」に一回参加したが、牧之原のことを考えた熱い意見が交わされていて驚いた。是非、反映してほしい。今は、「対話と協働のまちづくり」を唱って進んでいる方向にはない。もっと多くの市民の意見を大切にしてほしい。暗に掲げられた「新しい学校」「みんなの学校」には、到底なりえない。 ②そもそも、「学校」は、そのあり方が大きく変化している。「学校」ではなく、オルタナティブ教育(ワンスクールなど)も選択肢の1つであるし、公立学校のなかにも、通知表がなかったり、時間割を自分たちで決めたり(イェナプラン)校則がない学校もめずらしくない。この案の「新しい学校」「みんなの学校」は、時代に乗り遅れている。提案者は、もっと、時代に沿った学校、教育の在り方を知って、再考し直して欲しい。	牧之原市の望ましい教育環境のあり方に関する方針に基づき検討している学校再編計画は、子どもたちに望ましい教育環境で学び、育つことができるようにするためにハード面を整備するための計画です。審議会である学校再編計画策定委員会では、専門的な知識を有する者として、静岡大学教育学部教員、一級建築士を持つ県職員を始め、教員代表、自治会代表、保護者代表、一般公募の計10人で構成しており、地域性が高いことから自治会に入っていました。 学校再編計画については、令和元年度から検討していますが、その元となる「望ましい教育環境のあり方に関する方針」については、平成29年度から検討しています。パブリックコメント前の最終的な市民参加の場として説明会を実施させていただきましたが、令和3年度は、更に、保護者、地域、教職員、高校生との意見交換を開催しています。市民参加の勉強会や意見交換会を実施し、平成29年度から現在までの実施回数は118回、参加人数は4,000人以上、意見数は5,000件以上となっています。また、ホームページだけでなく、広報まきのはらでも特集記事を掲載させていただいています。 学校再編計画には、さまざまな視点が必要だと考えておりますが、この学校再編計画では、牧之原市として学校再編の方向性を示したものととなります。具体的な、学校運営の方法などについては、今後、議論、決定していきますので、ご提示いただいた対策案については参考にさせていただきます。	無し	
10	55	1		学校規模を小さくするメリットがあちこちで語られ研究されている中で、今回の再編計画は、一人一人の子どもを丁寧に育てるという目線から見ると、必ず実現しなければならない課題がたくさんあると思います。(できないのでは、という疑念もあり、不安も大きいです)この計画を実行するならば、絵に書いた餅にならないよう、十分な予算をとって取り組んでいただきたいと願います。特に希望するのは、少人数クラスにすること、教師の人数を増やすことです。市民と共に創り上げていく姿勢で取り組んでいってください。宜しくお願いします。(市民には力を出してくださる方々が多くいらっしゃいます。たとえば、子どもをはじめとする参加型の萩間の杉の木を有効利用する案など。)	学校再編については、市全体で取り組む重要課題としてとらえております。学級の人数は国が定めるため、市が編制基準を変えることはできません。教員数についても、学級数に応じた定数が決められています。しかしながら、市としては、教育活動に応じた少人数指導や支援員の配置等により、子どもたちが学び、生活しやすい環境をつくっていきます。なお、令和4年度からは、学校ごとに「学校再編計画整備基本構想」を策定します。具体的な内容となりますので、皆さんが不安に思われることや課題が解消できるよう、保護者、教職員、地域、そして子どもたちの意見を聞きながら進めていきます。	無し	

■ 未来の子どもたちのための新しい学校づくり計画（案） パブリックコメント 意見・回答一覧

通し	意見番号	項目	ご意見	回答	計画への反映	関連ページ	
11	39	1	全般(計画全体)	<p>校舎の老朽化・少子化の中で現状維持が難しく、多様かつ急速に変化する教育に対応し、全ての子どもたちに適切な教育機会を提供するという点から、学校の再編が必要であるものと思われる。</p> <p>この計画においては、牧之原市の活性化やまちづくり・公共施設管理と密接な連携・取り組みが前提とされているのかかわらず、まちづくりの方向性や地域の在り方・VISIONが示されていない。そもそも、現在の計画はコンパクト化・集約化を前提とするものであるが、それ以外の代替案の検討もなされずに一択で議論を進めることが、懸念や不安を大きくしている。</p> <p>この点については、榛原・相良各一校ずつ以外の再編計画や、地域に多様な教育施設を併設するなどの複数案における費用対効果、メリット・デメリットを比較した上での議論が必要ではないだろうか。まだ、DX(デジタルトランスフォーメーション:デジタル化による変容)が進められる中、今後10年でさらに教育現場が変容することが予想され、また選択肢は増えてくる可能性が考えられる。</p> <p>牧之原市の学校再編計画が実行されることにより、子ども達のみならず地域社会に大きな変化が起こることになるため、そこには必ずメリット・デメリットが存在するはずである。学校規模が大きくなることでより多様な教育の提供が可能となり、小さい学校で存在したさまざまなリスクが減る可能性がある。しかし、今現在もいじめや不登校などの多くの問題が存在しており、それらの問題に対応しきれない現実がある。また、大きな学校になることで生まれる懸念や不安も多い。たとえば、学校・学級規模が大きくなることで、多様な体験学習や主体的な学びが難しくなること、また委縮してしまい事故を発生できない子どもたちが存在すること、教師の目が細かいところまで行き届きにくくなることなどが上げられる。加えて、すでに教師のオーバーワークの問題もある。このような大きな学校になることのデメリットを最小化し、メリットを最大化していくため、様々な視点からの検討が必要となる。</p> <p>学校や行政に委ねるのみではなく、地域の活動、多様な教育、支援を提供する活動と一体となって取り組むことが必要であり、また子どもの心の専門家や発達障害の専門家などの意見を取り入れて、今後の学校計画のあり方を作っていくこと求められる。</p> <p>最新の計画ではこれらの活動に言及はされているものの、具体策は見えず、その実施主体、体制も現実的とは思われない。これらの実施計画について地域、市民の声を集約し、「地域とともにある学校づくり」の視点を踏まえて丁寧に進めていくことが求められる。</p> <p>上記のように、各種検討や議論が不明瞭、不十分なまま、一方的に決められていくことに対して、現在の計画に白紙委任をすることはできない。対話によるまちづくりを掲げる牧之原市だからこそ、このような議論を重ねて計画を充実させていくことを切に要望する。</p> <p>学校再編計画において、以下の点を要望する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一 子どもたちの意見を聞き取り入れること 一 現役の教師たちの意見を聞き入れること 一 他の代替案との比較を示すこと。(規模人数、財政も含む) 一 地域の今後のまちづくりと連携したVISIONを示すこと 一 地域社会の活動(地域における生涯教育や多様な教育の場など)との連携・支援システムの構築をはかること。 一 安全な通学の確保、再編による長距離通学による負担や影響をなくすこと。 一 画一的な教育を避け、少人数クラス制の導入や活動の規模を意識することで、一人ひとりにきちんと目が届くようにし、子ども達が個性を活かして成長していける教育や環境を確保すること。 一 教育や社会の多様な変化に柔軟に対処していけるような体制をとること。 一 上記のような点はすでに計画に盛り込まれているが、単なるスローガンではなく、これからの活動が着実かつ具体的に実現され、そこに市民や地域が参加できる具体的な枠組みを構築すること。 	<p>学校再編計画については、令和元年度から検討していますが、その元となる「望ましい教育環境のあり方に関する方針」については、平成29年度から検討しています。また、検討のスタート当時から市民参加の勉強会や意見交換会を実施し、平成29年度から現在までの実施回数は118回、参加人数は4,000人を超え、また、それらの中で5,000件強の意見をいただきました、これらを基に再編計画(案)を策定しています。</p> <p>各要望事項についての回答は次のとおりです。</p> <p>〈子どもたちの意見〉 これまでも中学生や高校生の意見を聴取してきました。また、来年度は、対象を小学生からとして、小・中・高校生を対象とした授業またはワークショップ等を予定しています。意見を聞く対象に「子どもたち」を追加します。</p> <p>〈教職員の意見〉 現役の教員からは、「望ましい教育環境のあり方に関する方針」の時から、複数回に渡り意見を聞いています。来年度から検討する「学校施設整備基本構想・基本計画」の検討の際にもさらに聞く予定です。</p> <p>〈代替案〉 これまで、さまざまな校数や組み合わせを検討し、子どもたちの望ましい教育環境と経済的な施設環境の両面から最適な校数として、最終的に2校案としており、市としては、整理済みとの認識です。</p> <p>〈まちづくりのビジョン〉 まちづくりのビジョンについては、市総合計画や都市計画マスタープランとの整合を図り進めています。市総合計画については、令和5年度からの第3期計画にも盛り込まれる予定です。</p> <p>〈地域社会の活動〉 再編後においても、地域のつながりが持て、共に子どもを育てることができるように、新しい学校でもコミュニティ・スクールの設置を予定しています。現在、各校に設置したコミュニティ・スクールのメンバーが来年度から中学校区での交流や連携から始め、その人たちを中心に新しい学校のコミュニティ・スクールの内容や体制について検討していきます。「学校施設整備基本構想」では、新しい学校の多機能化についても検討する予定ですので、そこでさまざまなご意見をいただきたいと思います。</p> <p>〈通学方法〉 通学方法についても、上記同様、「学校施設整備基本構想」において検討する予定です。</p> <p>〈個性を生かす教育〉 子どもたちが個性を活かすことができる環境が大切です。少人数指導については、教育活動内容に合わせて実施していきたいと考えています。</p> <p>〈変化に対応〉 教育や社会の多様な変化に柔軟に対応することは大切です。その旨を計画案に盛り込みます。</p> <p>〈着実な推進〉 新しい学校づくりに向けて着実に推進できるようにします。また、引き続き市民参加の機会をつくっていきます。</p>	<p>Ⅶ「推進に向けて」の見出しに「多様な変化に柔軟に対応していく」旨を追加</p> <p>Ⅶ-1「推進方法と体制」の意見を聞く対象に「子どもたち」を追加</p>	P33

■ 未来の子どもたちのための新しい学校づくり計画（案） パブリックコメント 意見・回答一覧

通し	意見番号	項目	ご意見	回答	計画への反映	関連ページ
12	57	1	未来の子どもたちのための新しい学校づくり計画を読みました。希望に満ちた冊子と思いました。牧之原市の少子高齢化等の課題に対策するためだとは思いますが、再編後に出てくるであろう課題が冊子には記載されていません。現在考えうる再編後のデメリットとその対処法を公表してほしいです。その上で今一度市民の意見を聞いてほしいと思います。自分は60台なので直接学校に関係ないといえますが、今の子どもたちが自分で考え行動する大人になれる学校を願っています。	再編計画は、学校区をメインに、どのような学校をつくるかを示すものです。デメリットについては、検討過程で整理していますが、今後についても、メリット・デメリットを明確にし、デメリットや不安を解消できるよう保護者、教職員、地域、そして子どもたちの意見を聞きながら進めていきます。	無し	
13	47	1	学校づくりの基本方針については、賛成です。ただ、計画を見ても今より魅力的で通わせたいと思えません。ましてや、市外、県外からも通わせたいと思う人は居ないだろうと想像します。私は、財政面や今後の人口推移を見てもある程度行政のサービスが減っていくこと、受け入れる覚悟はありました。それが今回の学校再編についてもです。しかし、コミュニティースクールや共育といながら地域コミュニティの存在は置いていかれ、位置づけが明確ではありません。教育の質も然りです。キャリア教育、ICT教育といっても、教育の質や提供されるサービスなど具体案はありませんでした。通う子どもや大人・地域社会がワクワクするような学校計画ではないです。むしろ、不便さや不安が募ります。人口問題についてもより悪化が懸念されます、地域に学校がないところに若い世代や人は住みません。学校があることで、人が住み、商店ができたり、地域が形成されるんです。むしろ、方向転換し、なるべく長く地域の学校に子どもたちに通わせられるように、地域に学校が残せるように、地域の人と学校が関係性を持たせられるように、計画を修正・練り直しを検討されませんか。不自由なところが少しあっても、地域の力やPTAのサポート、地域資源の活用で補えば良いじゃないでしょうか。いらない施設は、省けばいいんです。例えば、プール。30年前のように毎日夏休みに通うということが前提ではありません。泳ぐ能力をつけさせたいのであれば、むしろ地域のスイミングスクールに単位を取るという形で数回通うということでも代用できるはず。ミニマムで小回りの効く学校運営が今求められているのではないのでしょうか。子どもたちにとっても、忘れ物が取りに帰れないぐらいの距離の学校なんて通いたくないはず。今の計画では、個を生かせず、画一化した児童生徒の育成となり、地域特性を活かした教育環境づくりは難しいのではと考えます。そして益々、初等教育からの私立への進学が増えていくのではと思います。個人的な意見としては、時代を担う子どもへの行政予算の投資は惜しみません、何より教育が重要であると思います。素晴らしい学校がある牧之原と言われ、学校教育で移住者が増えるような、ユニークでワクワクする・良い教育が受けられる学校づくり望んでいます。そのためには、市民としても是非協力したいと考えます。以上より、計画の再検討を希望します。	望ましい教育環境のあり方に関する方針では、牧之原市がどんな子どもを育てたいか、そのために必要なソフトとハードについて示しています。学校再編計画は、その方針に基づき、学校区をメインとしたハード整備をするための計画です。 キャリア教育やICT教育については、すでに取り組みを始めています。地域と学校が共に子どもを育てる仕組みであるコミュニティ・スクールも令和3年度までに全校に設置しました。これらは、学校再編を見据えて、今から地域と学校がつながることは大切だと考えており、望ましい教育を再編後にいきなり行うのではなく、再編までには、より充実した教育が実践できるよう既に取り組んでいるものです。 また、学校規模については、子どもたちが多様性の中で生活できるよう、クラス替えができる規模としています。現在は、小規模校が多い牧之原市ですが、今後も児童数の減少が想定され、6年後には市内全体で1学年220人となる見込みです。市では、これら現実的な課題が目の前に来たら対策するのではなく、未来を見据え、今から子どもたちにとってより良い教育環境の整備を検討し、子どもたちに、これからの予測困難な社会を自分らしく生きることができるよう力をつけさせたいため、今後において前向きな学校づくりを進めていきたいと考えています。ぜひ、ご協力をお願いします。	無し	
14	22	2	コロナ感染対応でそれぞれの学校も大変な状況でしょう。我々医療に従事する者も恐怖の中で仕事をこなしています。濃厚接触者の定義も揺れ動いている今、またPCR検査もいつできるか、陰性証明もいつ届くかわからない状況で一番困っているのは子供たちです。出席停止中の学習、登校許可は…等々早急にどの教育現場も統一されたものを作成し保護者に配布する。今、やるべきことはそこです。6年生 中学3年生は卒業という節目…この子たちには今しかない卒業という節目を経験させてあげてください。昨年の経験を無駄にしないで下さい。よろしくお願います。やはり学校編成には賛成しかねます。	感染症対策については、VI-1-(4)「健やかで衛生的な環境の整備」に記述しています。新しい学校では、ハード面においても感染症対策しやすい機能を標準装備していきたいと考えています。また、行事についてはV-1-(4)-①「成長過程に応じた節目の設定」及び②「9学年を生かした行事の設定」に記載しています。義務教育学校になった場合、入学式は1年生、卒業式は9年生となりますが、6年生には卒業式に代わる行事、7年生には入学式に代わる行事を行っている学校もあります。どのような形が良いかについては、開校数年前から検討する(仮)開校準備委員会で検討していきたいと考えています。	無し	

■ 未来の子どもたちのための新しい学校づくり計画（案） パブリックコメント 意見・回答一覧

通し	意見番号	項目	ご意見	回答	計画への反映	関連ページ	
15	43	1	全般(計画全体)	<p>子供は地域の宝物なので、計画書にあるような内容が実際出来るのであれば有り難いと思います。しかし、そもそも高台移転が必要か？という疑問もあります。1番は地震、津波という災害の被害を防ぐ事でしょうが、運良く学校にいる時間に被災すれば安全でしょうが、早朝や夕方以降であれば意味はありません。</p> <p>それなら、今平地に残る学校の中の幾つかポイントとなる建物にお金をかけて改築、高層化し、万が一の事態にはここを市民が生き残るための防災拠点としてある活用する方が現実的であり、今ここに住む私たちの生活の将来の安全ともリンクします。</p> <p>また、小中一貫の良さもあるでしょうが、今私たちの町が抱える大きな課題である、少子高齢化と、市外進学者が市内に帰りにくい現実を考えた時、多くは高校から市外進学校や、私立高校に進み地元を離れる子供が多く、そうすると就職も進学も地元愛も地元意識も持ちにくく地元が目向きません。現状、田舎の公立校は、生徒減＝教師減で、どんどん競争力を無くしてしまっていると聞いています。生徒減の比率で教師を一律に減らすのではなく、市が予算を付けてでも、教師を育て、外部のプロや市民も手伝って魅力ある中高一貫校とし、進学も就職も強い学校を作る事が望ましいと思います。</p> <p>コミュニティスクールの話にしても、現実的に平地に住む人が圧倒的に、高台に移転してしまった学校へ、これまで以上に地元市民が入って関わるといのは非現実的だと考えます。市民は近い将来皆高台移転をさせる(もちろん市が費用を負担して)構想があるのでしたら、出来るのでしょうか…</p> <p>そもそもの話をひっくり返すようで恐縮ですが、小中一貫も高台移転も、一市民としては疑問であり、賛成できません。</p>	<p>本計画では、津波想定区域外に安全な学校施設を造るとしており、具体的には、相良地域は相良総合センターい〜から相良総合グラウンド周辺、榛原地区は総合運動公園ぐりんばるから榛原中学校周辺として検討をしています。</p> <p>児童・生徒が安心して学べることを最優先とし、災害に対して安全な施設とすることが重要であり、子どもたちも保護者も学校に来る地域の方もみんなが安心できる学校とすることは市の責務であると考えています。</p> <p>市内の高校については、設置者が県知事であることから、市の再編計画の対象外ですが、児童生徒数の減少に伴う諸課題については情報共有をしていきます。</p>	無し	
16	6	1		<p>学区の撤廃、再考も同時に考えて頂きたいです。</p>	<p>学校の選択については、学区をなくす、選択できるようにするなどいくつかの方法があります。学区をなくすことについては現在考えていませんが、選択する方法については、今後検討する必要があると考えています。</p>	無し	
17	3	1	学校区	<p>榛原と相良それぞれでの仮案みましたが、自身としてはこちらの仮案には反対で、各小学校での中学までの所と学校を合併させての中学までの所がいいと思います。例えば菅山小学校は中学までにするとかです</p> <p>通う子供達の意見も取り入れたうえでより良いかたちがいいと思います。</p>	<p>市では、平成29年度から、子どもたちが学び、育つための望ましい教育環境を検討してきました。その中で人間関係を固定化することなく、多様性の中で育つことが望ましいとのことから一学年で複数学級となる規模が必要であるとしています。</p> <p>このことから今回の計画案の学校規模については、長期的に複数学級が維持できるように開校時は1学年3学級以上としています。</p>	無し	
18	42	1		<p>萩間は牧之原中学へ通学したらいい。津波危険地域へわざわざ通学することは無い。それと、変える気がないのに意見を募集する必要ないのでは？</p>	<p>新しい学校の場所は、津波浸水想定区域外としています。</p> <p>また、学校再編をより良いものにするため、必要な箇所にはつきましては、修正していく考えです。</p>	無し	
19	8	1	学校区(学校組合)	<p>学校予定地や建設にあたり、一部の会社が利益を独り占めしないようお願いしたい。地頭方地区や牧之原地区を置き去りにしないよう進めて欲しい。</p>	<p>学校再編計画では、地頭方地区の子どもは、相良地区に設置する義務教育学校に通うことを前提の計画となっています。</p> <p>また、牧之原地区の子どもたちについては、現段階では人口の増加程度の予測が難しいこと、そして構成市である菊川市が令和4年度から始める学校のあり方の方針を踏まえて検討する必要があるため、今回の再編対象外としています。今後も検討を継続し、牧之原小中学校の教育のあり方について地域の皆様と議論を継続していきます。</p>	無し	
20	14	1	学校区(地頭方小学校区)	<p>息子が地頭方小学校に通ってます。地頭方小学校だけ相良の外れなので、近くの御前崎中学校に移転したらどうでしょうか？今地頭方小学校は中学校は御前崎中学校に通ってます。うわさでは御前崎中学校も何年か後浜岡中学校と一緒になるようなことも聞きます。でも今でも空いている部屋もあるので、そうならないとしてもそのまま使えんと思います。高台なので、津波の心配もありません。もしできたら、御前崎中学校の近くか、その校舎で、白羽、御前崎小学校と一緒に小学校統合されても中学校の通学区域なので、私達親としては構わないと思います。</p>	<p>地頭方小学校の子どもは、牧之原市の教育方針の下で育てていきたいと考えています。御前崎中学校は、管理市が御前崎市であり、牧之原市だけの判断で現在の御前崎中学校で新たな小中一貫校をつくることはできません。また、白羽小学校と御前崎小学校についても、御前崎市立の学校であり、その統合については牧之原市で判断することはできません。</p> <p>御前崎中学校のあり方については、既に御前崎市との情報交換、協議をしており、御前崎市の方針とともに具体的な方向性を定めていきます。</p>	無し	

■ 未来の子どもたちのための新しい学校づくり計画（案） パブリックコメント 意見・回答一覧

通し	意見番号	項目	ご意見	回答	計画への反映	関連ページ
21	2	1	地頭方小学校・御前崎中学校よりもまずは牧之原小学校・牧之原中学校が再編され、相良地区・榛原地区に編入するのが当然。牧之原地区の人口は2,000人程度。牧之原市の人口の10%にも満たない。高台開発が成功したとしても面積的見て居住人口は数百人程度しか増えないと思われる。一方、地頭方地区の人口は約5,000人程度。地頭方地区の小学校・中学校が再編されるのであれば、牧之原小学校・牧之原中学校を真っ先に再編するのが当然である。牧之原小学校・牧之原中学校のみを特別扱いするのは合理性が無い。	牧之原地区の子供たちについては、現段階では人口の増加程度の予測が難しいこと、そして構成市である菊川市が令和4年度から始める学校のあり方の方針を踏まえて検討する必要があるため、今回の再編対象外としています。今後も検討を継続し、牧之原小中学校の教育の在り方について地域の皆様と議論を継続していきます。		
22	2	6	当計画案は、牧之原市の人口の約7割が集中して居住している沿岸部の市民生活が考慮されず、牧之原市の人口の1割にも満たない牧之原地区のみが特別優遇扱いされているアンバランスな計画である。今現在、牧之原市に居住している多くの市民の生活を第一に考え、根本から再考すべき計画案である。			
23	24	1	牧之原小、中の9年制は反対です。 いつも牧之原地区だけ同じ牧之原市でも独立してしまい他の地区と交流がないです。保育園小学校時代で人間関係でつまずくとひとクラスしかないので逃げられません。それが原因でよその中学に通う子もいます。 部活動も他の中学に比べて生徒数がおらず部活動も選べないので、自分が好きで選んだわけじゃない入りたいものがないから仕方なく入った・・と子供はモヤモヤしながら3年間部活をやっている状態の子が多いです。 大人数の中で、自ら子供が選択出来る機会を牧之原地区の子供達にも与えて頂きたいです。同じ牧之原市でも不公平だと思います。		無し	
24	53	1	牧之原小、中学校も小中一貫校に入れてもらいたいです。確定まではまだ時間があると思います。行政の方たちが話し合い動いてもらいたいです。 多様性があり選択肢がある。保育園から中学校までずっと同じ1クラス。それはそれでいいところもあると思いますが、小中一貫校に入れてもらい多様性があり選択肢もあるなかで自分に合ったもの自分で選択して学んでいってもらいたいです。 色々な経験ができ、色々な考え方ができるようになると思います。			
25	44	1	牧之原小中学校は現時点で対象外なのは仕方のないことかもしれませんが、もしこのまま新しい学校の対象にならなかった場合は、方針だけは同じ条件にして頂きたいです。施設の改築には限界があるとは思いますが、ALTの常駐やICT活用など受けられるサービスは同じ条件として頂かないと差別感を感じます。	望ましい教育環境のあり方に関する方針では、牧之原小中学校区も含んでいます。したがって、今後も子どもたちがより良い教育環境で学ぶことができるように検討していきます。	無し	

■ 未来の子どもたちのための新しい学校づくり計画（案） パブリックコメント 意見・回答一覧

通し	意見番号	項目	ご意見	回答	計画への反映	関連ページ
35	33	4	学校判断で特色ある教育の学校判断は市ですか県ですか？1つの建物単位ですか？	特色ある教育は、国、県、市又は学校判断のものありますが、義務教育学校になることで、学校判断で行える範囲は広くなります。	無し	
36	37	10	9ページに「教科担任制によって専門性を持った教員が授業を行うことで、分かりやすさと同時に学習のつまずきに対して丁寧にかかわって指導することができ、子どもたちの学力の向上につながる」とあります。初等教育の免許がない教員が小学生を教えるのは危険だと思います。小学校では教員の教え方が大切で、専門性はそれほど意味がないでしょう。むしろ中学校の教員が教えることで、小学生の中学校化を多くの教育学者は心配しています。不登校や学力の停滞が起こるのではないかと思います。	現在でも、中学校免許のみを保有する教員は、小学校の学級担任になることはできませんが、担当教科を教えることが可能です。 令和2年度から小中一貫教育の研究指定校となっている牧之原小・中学校では、中学校の音楽の教員が小学生の授業を受け持っています。また市内の小学校では、英語専科教員がおり、中学校の教員が小学生を教えています。 小学校と中学校は指導方法が異なる面がありますが、小・中学校の教員がお互いの指導方法を学ぶことにより、指導技術が向上し、最終的には子どもたちに還元されるものとなります。	無し	
37	34	2	小学校の卒業式、中学校の入学式などもなくなるのですよね？とても寂しく思います。	ご心配のとおり、新たな学校で行う9年間の行事をしっかりと検討していく必要があります。義務教育学校になった場合、入学式は1年生、卒業式は9年生となりますが、6年生には卒業式に代わる行事、7年生には入学式に代わる行事を行っている学校もあります。どのような形がよいかについては、開校数年前から検討する(仮)開校準備委員会で検討していきたいと考えています。	無し	
38	25	2	中1ギャップでつまづく子が少なくなるとありますが少なくなる根拠を知りたい。逆に増えてしまう危険性はないか。	学校の方針については、現在は各学校で決めています。小学校と中学校では、多くの違いがあります。例えば、学級担任制と教科担任制、制服の有無、部活動、定期テスト等です。この違いに慣れない子どもやつまづく子が全国的に多くなっています。		
39	37	9	9ページには、「中一ギャップが緩和され」と書かれてありますが、これもお門違いではないでしょうか。大都市圏では、小学校までは公立、中学校は中高一貫校へ進学する比較の学力が高い子どもが抜けてします。それ以外の子どもが複数の小学校から公立中学校に進学してきます。なかには不本意な入学生もいます。それがギャップにつながるのです。また、地方では(牧之原市など)、1970年代に多くの中学が統合されました。子どもたちは小さな小学校から大規模な中学へ通学せざるを得ませんでした。近くの中学から遠い中学に登校することを強いられました。つまり、1970年の中学の統合に大きな問題があったのです。中一ギャップは、教育行政が生み出したものです。榛原、相良中学では先生方の奮闘にもかかわらず、問題行動が多発したのを記憶している人も多いいのではないのでしょうか。	そこで、小中一貫教育を導入することで、一部教科担任制や、小学校のうちから中学校の生活を知ることにより、なだらかな移行ができるようになります。 現在は、小学校は、小学校卒業時の子どもの姿をイメージし、中学校は、中学校卒業時の子どもの姿をイメージして教育を行っています。小中一貫校では、小・中学校が中学校卒業時に子どもがどんな子になってほしいかを共有し、そこに向けて9年間を段階的に積み上げることができるようになります。 これまで小学校と中学校がお互いがどのように子どもたちに指導しているのか、どこがつかぬのか十分理解できませんでした。 牧之原市においては、学校再編を見据え、令和2年度から中学校区で小中連携事業を行い、小学校、中学校がお互いを知るところから始め、連携事業の効果の検証や課題の整理をしています。 小中一貫教育を進めることで、より充実した指導ができると考えています。	無し	
40	25	1	義務教育学校でできること①の小学校が同じ方針で子育てできるとありますが今までは違う方針だったのか、違う方針でどのようなデメリットがあったのか知りたい。	小中一貫教育を進めることで、より充実した指導ができると考えています。		
41	60	2	小中一貫教育は良いかもしれませんが、これは教育者(プロ)が判断してほしい。小中一貫校として1つにまとめるのは反対です。校長の専門が違います。	小中一貫教育については、教育者が判断しています。 また、小中一貫校としてまとめる校長の専門が違ふとの意見については、現在の小学校でも中学校免許の教員が校長を務めている場合がありますが、着実に充実した学校運営ができていると認識しています。	無し	
42	37	6	8ページに統合によって子どもたちにつけたい力が「次代を切り拓く力」と書いてありますが、なぜ小中一貫校がそのような力をつけることができるのかの説明はありません。後で出てくる、「切磋琢磨論」はそのことを言っているのかもしれませんが、以後もなぜ小中一貫校でなければならないかの説明がありません。	次代を切り拓く力をつけるために、キャリア教育を軸とした小中一貫教育とコミュニティ・スクールを進めることは、「望ましい教育環境のあり方に関する方針」で定めており、この方針をもとに様々な検証と研究、実践及び学校再編を推進しています。	無し	

■ 未来の子どもたちのための新しい学校づくり計画（案） パブリックコメント 意見・回答一覧

通し	意見番号	項目	ご意見	回答	計画への反映	関連ページ	
43	51	1	学校規模	関西の方でも、地域の過疎化が進み小中一貫校で新しい学校をつくったが、その後5人に1人が不登校になってしまったという例もあるようです。理由は一概には言えないと思いますが、今まで集落毎の学校にて少人数でわきあいあいと授業を受けていたのに、突然マンモス校になり、授業についていけない生徒や大人数に馴染めない子が増えたとの理由もあるようです。今回の統合計画に反対ではないのですが、今までの少人数制で先生が一人一人に注目できていた集落毎の学校教育のメリットは大きいと思います。1人も取り残されずに、大人数の学校になっても先生が一人一人に目をかけられるような仕組みを作るのは大切な、と思います。	新しい学校は、単に小学校と中学校を同じ施設とした小中一貫校ではなく、義務教育期間の9年間で1つとした義務教育学校という新しい種類の学校となります。初期の小中一貫校にはさまざまなデメリットが指摘されましたが、現在はそれら先進事例をもとにデメリットを解消する策を講じている学校が多くあります。牧之原市もメリットを伸ばし、デメリットを少しでも少なくし、教育効果が高められるよう検討していきます。	V-1「みんなが楽しく学び生活するために」に「人的サポートと、成長過程に応じた教育課程の編制」を追加	P18
44	37	11		「9年間の個の学びや育ちを全教員が共有する」ことができると書いてありますが、これも俗論です。大規模校で千人近い子どもたちのことを全教員が共有することはできません。大規模校では他学年まで子どもたちのことを理解することはできません。	新しくできる学校は、1学年3学級から4学級であり、文部科学省の指針でいう適正規模校となり、大規模校を目指すものではありません。現在の小学校でいえば相良小学校くらいです。教育活動に応じて、大人数行うもの、少人数で行うものを選択することができるようにしたいと考えています。		
45	57	7		学校が大きすぎると子供たち主体の学校にはならないのではないですか。いろいろな考えの子どもたちがいるので、少数派の意見は通りにくくなるおそれはありませんか。	学級数も多くなれば、学級担任だけでなく級外職員も配置されます。現在の単学級の学校に比べ、教員1人当たりの児童生徒数が多くなることはありません。さらに、市としても人的サポートをして、目が行き届くきめ細かな指導の実現を目指していますので、V-1の「みんなが楽しく学び生活するために」にその旨を追加します。		
46	37	8		クラス替えができることもあまり意味がないでしょう。これはここには書いてありませんが、クラス替えがあると、イジメを抑制できるという俗論が背後にあります。もし、クラス替えでイジメが抑止されるのであれば、大規模校では低減することになりますが、そういうデータがあるのでしょうか。イジメはそう単純なものではありません。むしろ、データはありませんが、教員の目が届きにくい小規模校の方が良いと思えます。	いろいろな人がいて、いろいろな考えがあり、特性があることを早くから子どもたちに知ってもらいたいと思います。さまざまな人との対話や体験、協働を通して、子どもたちには自分を知る、自分と他人の違いを享受する等の力を育てるようにします。		
47	37	14		15ページの学校規模のことで、「切磋琢磨論」と言われるものが登場します。子どもたちはそれだけでなく学校では競争をさせられています。全国学力調査で比較されるため、教員は前のめりになりがちであり、学校はおおらかさを失ってきたという指摘があります。「一人一人の多面的・多角的な思考力・表現力等」を伸ばすためには1学年3学級以上とすると書いてありますが(8ページの文言と矛盾)。名前も覚えられない児童・生徒がたくさんいて、子どもたちはのびのび出来るでしょうか。のびのびできない場では、一人一人の多面的・多角的な思考力・表現力を発揮できるはずがありません。	感染症対策については、現在の学校の状況を見ると規模との相関はありません。新しい学校では、例えば、距離が取れるように広い教室にする、空気循環できる機能を付ける等、ハード面からもより安全・安心な環境をつくっていきます。		
48	57	4		大規模だと感染症やいじめの問題が起きやすく終息しにくくなりませんか。			

■ 未来の子どもたちのための新しい学校づくり計画（案） パブリックコメント 意見・回答一覧

通し	意見番号	項目	ご意見	回答	計画への反映	関連ページ	
49	23	1	学級の人数	人クラス人数が35人は多すぎると思われます。現在、不登校が増えているのは大人数での学習が難しい特性のある子などグレーゾーンの子などが増えているのでそういった子供たちも平等に苦しくなくなることなく学べる様にするには少人数制のクラスも検討するべきだと思います。	1学級の人数については、文部科学省の基準に基づいて学級編制が行われており、市が独自に決めることはありません。 改正された義務教育標準法においては、小学校2年生まで1学級の人数を35人を上限としていたものを、2022年度以降、小学校3年生から学年ごと順次引き下げていき、2025年には小学校全体の学級編制基準を35人とするとしています。 すでに静岡県では全学年を対象に学級編制基準を35人としています。文部科学省は今後30人学級を目指しているため、引き続き国の動きを注目していきます。 現在、1学級の人数は35人を上限としていますが、例えば1学年の人数が36人の場合は1学級18人で2学級、72人の場合は1学級24人で3学級となります。 1学級の人数を35人として学級数を算出していることを追加します。	IV-2「学校区」の説明に、「1学級の人数」を追加	P15
50	57	2	学級の人数	1学級3学級以上とありますが、1クラスの人数がわかりません。1クラス20人程度の少人数学級が経験上児童にも父母にもなじみやすいと思います。	1学級の人数を変更することはできませんが、教科や授業の内容によって少人数指導を取り入れていきたいと考えています。		
51	33	6	学級の人数	文科省の1学級35人制は現状子どもと接する先生方はどう捉えていますか？	文部科学省の学級編制基準は、2年生まで35人、3年生以上は40人となっています。しかし、すでに静岡県では全学年を対象に実施されています。1学年の人数によって、1学級18人から35人と幅があるため、教員の捉え方はさまざまです。	無し	
52	30	7	教育内容	自然、里山の森が身近にある牧之原市だからこそできることとして、自然や生活に関する知識、技術が身につく。多種多様な非認知能力が育まれる。自然と共鳴できるように。自然や文化の力を借りた教育。自然のなかでは統治者にならなくてすむ。自ずと理想の教育構造が得られる。教育の新しい視点が得られる。地方と都市部の格差解消につながる。自然との共存の可能性が広がる。これからの時代における教育的な課題解決と環境保全的な課題解決と社会構造的な課題解決の結節点に、森のようちえん的な、自然を活かした教育の場は必要だと感じます。	個々の教育活動につきましては、現在、各学校で様々な取り組みを行っているところで す。 Ⅲ-4-「2. 「次代を切り拓く力」を育む学校」の説明には、牧之原市からできるリアルな体験について記載をしていますが、 牧之原市の自然や企業など、さまざまな地域資源を活かした体験についてご意見をいただきましたので、牧之原市からできるリアルな体験の前に「牧之原市の地域資源を活かした」を追加します。		
53	31	4	教育内容	<体験学習の機会を増やしてほしい> 子供の頃は興味もあつたし挑戦できたのに、今となっては敬遠していることも多い。それは成長の過程で9年のうちにもっとも経験していたら違っていたかもしれない。 例えば、校内に畑を作ってみんなで年間通して野菜や果物などを栽培してみる。植物や土に触れたり、虫や動物に出会ったりすることで広がる世界もある。自分たちで作った食材で調理もしたらもっと食べ物を大事にできるようになる。 市内には様々な企業もたくさんある。そういった企業の見学や体験授業も増やしてはどうか。お茶農家や製茶工場で牧之原市の名産を知ったり、市役所や消防署などの公的機関で働いている人たちの大切さを学んだり。空港では飛行機を見たり、他県や海外への旅を夢見たり。飲食店で食に興味を持ってもらうのもいいかもしれない。 スポーツ施設もたくさんある。サーフィン、テニス、スケボーなど、体育の授業やクラブ活動（あるのかはわからないが）では体験できないものをきっかけに面白さに気づくこともあるだろう。	カリキュラムについては、今後、新しい学校ごと作成していくようになりますので、多くの方の意見を聞きながら、かつ、これまで取り組んできた良いところを取り入れた形で作っていきます。	Ⅲ-4-「2. 「次代を切り拓く力」を育む学校」の説明に「牧之原市の地域資源を活かした」を追加	P12
54	32	1	教育内容	将来、地元自慢のできる子供達が育つよう、ここ牧之原でしか出来ない体験ができる義務教育学校を希望します。具体的には、海が自慢の牧之原市らしく、マリンスポーツ、釣り、砂の造形、ウミガメ保護活動、ワカメ獲りなどを体験できる授業があれば面白いと思います。特に、牧之原市ではサーフィンが盛んなので、サーフィン授業や、横乗り関連でスケートパークなども校内にあれば面白いのではないかと考えます。			
55	15	2	教育内容	住んでいる地域から学校が少し離れてしまっていますが、今まで通り、住んでいる地域に根付いた体験、果物かきや、地域の商店街などに行ったり、地域愛を残すような取り組みをしてほしいです。			
56	37	1	教育内容	カリキュラムはどうなるのでしょうか。例えば、今は、小学校では1時限45分となっています。2時間目と3時間目の間の休み時間は20分です。それに対し中学校は1時限は50分、休み時間は10分です。この時間の問題さえ説明されていません。教職員の配置や人数も分かりません。あげれば切りがないほど、教育の具体的な内容は棚上げ状態です。	時間割等については、開校数年前から検討するものになります。 先進校では、休み時間の調整等を行い、朝や午後のスタート時間を同じにしている等工夫をしています。事例が多くあるので引き続き研究していきます。 教職員の配置は現状と同様、学級数に対して定数が決まっています。	無し	

■ 未来の子どもたちのための新しい学校づくり計画（案） パブリックコメント 意見・回答一覧

通し	意見番号	項目	ご意見	回答	計画への反映	関連ページ	
57	30	4		ICT活用が増えていますが、デジタル活用の狙いが、デモットai企業に使われるコントロールされる。にならないようにしなければなりません、目からの動画情報だけでは、記憶に残りません、心と身体への発展に寄与しない、デジタル教育の狙いを見極めることが必要です。https://youtu.be/WSS6XtPp_iQ 「堤未果著 デジタルファシズムNHK出版社」が参考になります。	牧之原市では、ICT教育については9年間の力の系統図を作成し、段階的に子どもたちが力をつけることができるようにしています。併せて専門的はICT支援員を置き、教員をサポートできる体制を整えていきます。	無し	
58	63	1		今までにない未来を生き抜く力を自ら育めるような学びを小中一貫校に期待します。今の在校生でも新しい学びに向けて少しずつ導入してもらえると嬉しいです。	新しい学校施設をつくるには時間が掛かりますが、ソフト事業は再編前から進めていきます。現在、小中一貫教育を目指した連携事業を中学校区で行っており、また、キャリア教育のプログラムや9年間の教科のカリキュラムを検討・試行も行っていきます。	無し	
59	28	3		昨年秋のアースランチの取り組みは続けてほしいと思います。発表に至るまでの期間、たくさんの学びが詰まっていたと思います。プレゼンのパフォーマンスにも感動しました。特に相良小は台本を見ずに身振り手振りで表現していて素晴らしいと思いました。未来の子どもたちのための新しい学校づくりーーわくわくします。	アースランチは、キャリア教育の試行的プログラムの1つです。将来的には、新しい学校の1つの学年で取り組むプログラムとなるものと考えていますが、今後のカリキュラムについては更に検討をしていきます。	無し	
60	33	7		個に応じた指導とは具体的にどのようなものなのでしょうか？	V-2-(5)-②に「個を生かす教育の充実」として記載していますが、個に応じた指導は、個々の能力や特性に応じて意欲を高めたり、深めたりできるよう、学習進度、学習到達度等に応じて学べるようにするものであるため、ICT機器なども活用しながら、知的好奇心を高める発展的な学習の機会を充実していきます。	無し	
61	18	1		勉強のできる子やもっと自由研究などをもっと深めてやりたい子に資料やサポートしてくれる方がほしいです。		無し	
62	37	18	教育内容	22ページの少人数指導は、意味不明です。少人数なら、今の小規模学校ですべてできます。小中一貫校にする必要はありません。また、「クラス内で分ける」ということが、習熟度で子どもを分けることを指しているなら、やるべきです。少人数学級であればそれは必要ありません。		無し	
63	30	5		能力評価については時代により変わります。今だに、前ならえとかやってるのならばかなりヤバイと思いますが、今後の能力について、国際標準はどこか理解必要です。https://youtu.be/qSmO0lsGe8s 学力が高い子どもであっても、知識の記憶力に終始し、やはり人格のゆがみがもたらされている、という議論が展開されている。自分も幸せに生きることができ、他の人も幸せに生きることができることを追求する学力が、ほんものの学力だということ。そしてそれは当然のことながら、人間社会の平和と発展に結びつくものだという事です。坂本光男1993年著	子どもたちにつけたい力は、Ⅲ-1「望ましい教育環境のあり方に関する方針(平成31年3月)」に記載したとおり、「望ましい教育環境のあり方に関する方針」で策定しています。	無し	
64	30	6		学校の能力としての学力は、可変的でありかつ一元的に高低で把握されるものとなっただけでなく、ほんものの学力は個人と社会に関する無限大の価値と結びつけられていった。それは結果として、学力の垂直的序列化の上方の極を、どこまでも遠く引き伸ばすように作用したのである。教育は何を評価してきたのか。教育は何を評価してきたのか 本田由紀著2020年 https://youtu.be/Q9pZZcV2MWg こちらは、少人数学級の良さについてです。		無し	

■ 未来の子どもたちのための新しい学校づくり計画（案） パブリックコメント 意見・回答一覧

通し	意見番号	項目	ご意見	回答	計画への反映	関連ページ	
65	31	2	教育内容	<p>< インクルーシブ教育を充実させてほしい > 男女平等は当然のこと、いろんな国籍の人や障害のある人も分け隔てなく育つことで、子供たちの多様性への感じ方もかなり変わるはず。 私自身、子供の頃クラスにいたカタカナの名前の子は“外国人”ではなく“同級生”として認識していたし、何かが違うとも思っていなかった。また、大人になるまで障害のある人とほとんど交流がなかったのが、今大人になってから交流する時には身構えてしまうことや気づき不足で後悔することもある。新しい学校でそういった触れ合いができれば、未来の子供たちはもっと優しくなれると思う。 もちろん、言語の壁や体の機能の壁があるかもしれないが、なるべく授業内容も一緒にできるものになっていると理想的。</p>	<p>児童生徒の母国語と日本語を話すことができるバイリンガル相談員については、現在4名配置し支援しています。学校数が多いため、現在は学校を巡回していますが、新しい学校では複数名が常勤することで、さらに充実した支援ができるようになります。</p> <p>V-1-(1)-②に「バイリンガル相談員の配置」として記載していました。また、インクルーシブ教育については、V-1-(3)の「インクルーシブ教育の充実」に記載しています。分かりやすいようにこれらをまとめて、新たに(3)-③として「外国人児童生徒等の支援」の項目を追加し、上記内容を支援内容として表記します。</p>	V-1-(3)-③ 「外国人児童生徒等への支援」を新たに項目追加し、支援内容をまとめて表記	P20
66	37	16		18ページの「日本語指導をバイリンガル相談員」とは何か分かりません。ベトナム語やポルトガル語のバイリンガルを確保できるのか甚だ疑問だと思えます。			
67	51	2	教育内容	今はブラジル人学校など日本語を話すのが難しい子供達は違う学校に行かざるを得ないかもしれませんが、そのような子供達もサポートできるような学校になれば、価値観の違う友達がお互いできて、より国際的な感覚を持った子供達が増えるのではと考えます。			
68	31	5	教育内容	<p>< 多国籍なALT & 外国語が話せる日本人の配置 > 最近どのような国籍の人がALTとして配属されているのかよく知らないが、ALTの方も複数いて、さらに欧米だけでなくアジア、アフリカ、南米などいろんな国の人がいたほうが、多様な価値観を身に付ける良いチャンスになると思う。授業は英語かもしれないが、普段の生活で触れ合う言語は英語のみじゃなくていい。 それに加えて、そのALTの方々と普段から外国語で話せる日本人と一緒にいる環境も大切ではないかと個人的に感じている。英語の先生だけけど、英会話は苦手という人も多いと聞く。それだと、授業で教える英語しか話さないし話せない。それを見ている子供たちは、やっぱり英語は“授業で学ぶもの”であって、“いろんな国の人とコミュニケーションをとるためのツール”であるとは思えないんじゃないだろうか。だからこそ、普段の生活から英語が開こえる状態があったらいいと思う。</p> <p>せっかく新しく学校を1から作るということなら、今までのそれぞれの学校のあり方を見直して、これからの子供たちが楽しく健やかに育っていけるような環境を整えてほしい。未来の価値観を想像することは難しいけれど、子供の権利がきちんと守られて、学んだり経験したりすることが子供たちの未来に繋がっていく、そんな学校になると親として私も嬉しい。</p>	<p>ALTについては、複数配置する予定です。</p> <p>また、コミュニケーションを図る機会をつくることで、グローバルな人材を育成することを、V-2-(3)-①の「異文化に触れる・外国語を話す機会の拡充」に追加します。 さらに、外国人児童生徒等がいることで、日本籍の子どもたちも外国籍の子どもたちも、日頃から多様な価値観や文化的背景に触れる機会が生まれることから、同項に、多文化共生の考え方に基づく教育に取り組む文言を追加します。</p>	V-2-(3)-① の「異文化に触れる・外国語を話す機会の拡充」に「グローバルな人材育成と、多文化共生の考え方に基づく教育に取り組むこと」を追加	P22

■ 未来の子どもたちのための新しい学校づくり計画（案） パブリックコメント 意見・回答一覧

通し	意見番号	項目	ご意見	回答	計画への反映	関連ページ
69	16	1	人数が多くなるといじめが絶対にあるので不安。先生、学校側がしつつかかりしてくれないと親は不安です。隠蔽されたことがあるし、実際にしている学校もある。汚いことは親は見逃さないですよ。	いじめは、多様な原因が組み合わさって起きることから、必ずしも人数や規模との相関関係があるものではないと考えております。新しい学校からではなく、これまで、きめ細かな指導をし、いじめの防止に取り組んできています。万が一、いじめがあった場合は、迅速で的確な対応や子どものケアを十分にできるように教職員の研修等も実施しています。再編後についても、いじめのない学校の実現に向けて継続して取り組んでいきます。		
70	56	1	「いじめ」の問題がどうなるのか 今の学校、子供の社会問題の中で、大きな域を占めるのは、「いじめ」問題です。今回の再編計画において、この大問題が、ほとんど述べられていないことに、がっかりしました。現在の小規模学校の、一学年、一学級の20名ほどクラスと、大規模校の40(35)名複数クラスの「子供のストレス」の差は明らかに、前者の方が少ない。それにより、目に見えないので、「いじめ」の問題が、昔のようなガキ大将的な単純化から、現在の、ネット等の複雑化になることは、明らかである。 また、現在の小学校から、中学校への進学により、子供の環境が変わることで、子供間の問題が、リセットされ、新たな、中学校生活が始まり、「いじめ」も小学校からの引継ぎがなくなる可能性が大きい。 しかしながら、再編計画での「小中一貫校」では、普通の進級と変わりなく、クラス替え程度による解決しか望めない。これは子供にとって、進学という大変化を失わせるチャンスを奪う不幸なことである。簡単に、小規模校では、一人の先生が、学校全員の顔と名前が一致できるが、再編計画学校では無理な話である。これは「いじめ」の芽を摘む、初期段階での、「声かけ」ができないことを意味し、重大事項になって初めて明らかになる結果である。「いじめ」の大問題を答申に、盛り込まなかった、現場管理職教育職員の感覚が全く分からない。		無し	
71	18	4	いじめる子もいじめる理由があるから、心のサポートをしてほしいです。いじめた子の気持ちも考える機会がほしいです。	心のサポートについて、V-1-(2)に記載しております。スクールカウンセラーやスクール・ソーシャル・ワーカーとの連携により、子どもたちの心のサポートをしていきます。	無し	
72	56	3	〈児童・生徒の学力、とりわけ「落ちこぼれ」については？〉 再編計画により、近代的な教育内容になり、学力が向上することが予想されるが、問題は、それについていけない、「落ちこぼれ」と呼ばれる理解度の低い児童・生徒、の問題である。このことにも全く触れていない。残念である。教師のきめ細かい対応が解決の糸口のなるが、大規模校による学校運営、教師管理体制の、クラス担任、学年副・主任、複数教頭、校長制度には全く期待できない。唯一希望が持てる、「準支援学級」には、触れられていない。	現在でも、学習に支援が必要な子どもについては、学習支援サポーターにより個々の支援や放課後学習を行っています。特別支援学級については、子どもの特性に応じて、集団で行う方が適切である場合、個別に行う方が適切である場合があります。新しい学校の施設の検討はこれからですが、配置や構造を工夫し、子どもたちが学びやすく、子どもたちの特性により活動場所が選択できるようにしていきます。	無し	
73	45	1	1歳と3歳のこどもがいます。2030年に開校した場合、こどもたちは小学校6年生と4年生の年にあたります。今回の計画で一番不安なのは自分たちの子供の世代は小中学校の途中で統合になるということです。9年間でより質の良い教育を、というのは理解できますが途中で変わる子供たちからしたらいい迷惑です。白紙に戻して欲しい、もしくは自分たちの子供が高校に進学した後におこなってほしいというのが本音です… このまま計画が進むのであれば途中で環境が変わる子供たちのケアを第一に考えて欲しいです。 またカリキュラムが途中で変わってしまうと子供たちは混乱し、学力は低下する可能性が高いと思います。統合するのであればこれから小学校に入學する子たちは統合校のカリキュラムに合わせた内容で授業を進めてください。統合した後に授業についていけない子が出ないようにお願いします。 全国的にも教員が不足していると耳にしますが統合した場合、今よりも教員数は増える必要があると思います。また先生方も統合直後は慣れないことが多く激務になることが考えられるのでフォローに当たる先生がいるようお願いいたします。 子供たちが成人したときに学校再編計画は失敗だった、とか再編のときにあたって災難だったとか実験世代とか言われないうちによりしくお願いします。	再編により、学年途中で環境が変わる子どもたちが必ず出てしまいます。急に变化させるのではなく、開校数年前から学校間の交流をしたり、授業や生活のきまりをそらえたり等、学校は離れているけれどつながりを持ち、再編して施設が一つになったときは、子どもたちが毎日友達と会えるようになってうれしい、教員は指導がしやすくなった等、より充実した教育環境をつくっていきます。 また、再編に向けての子どもたちのケアには力を入れていきます。教員数は学級数により決まります。また、複数学級ある学校では単学級の学校より級外教員が充実します。市では学習支援サポーター等子どもたちの支援をするスタッフも充実する予定です。 学校再編して良かったと思っただけのよう進めていきます。	無し	

■ 未来の子どもたちのための新しい学校づくり計画（案） パブリックコメント 意見・回答一覧

通し	意見番号	項目	ご意見	回答	計画への反映	関連ページ	
74	18	3		障害のある子どもも医療ケア児も通える、高齢者デイケア(高齢者のパワーリハビリや、リハビリプログラムなど)もする部屋など、多様性のある方々が集える学校になってほしいです。	VI-1-(2)では、「インクルーシブ環境の充実」について記載しており、学校施設の機能として、子どもたちが落ち着いて学習できるスペースやクールダウンできるスペース、医療ケアの実施に配慮されたスペース等を確保するとしています。 高齢者のデイケア等については、令和4年度から「学校施設整備基本構想」において、学校施設に何を複合化又は多機能化の検討をしますので、いただいたご意見を参考にさせていただきます。	無し	
75	15	1		発達障害や診断がつかないグレーゾーンの子供、特性がある子供も通いやすい配慮がある学校だと嬉しいです。 通級指導教室などが小学生だけでなく中学生もつけられるよう、また年数制限など設けな いでほしいです。特性がある子が、大きな学校のために取り残されないようにしてほしいで す。	III-4-1の「すべての子どもが主役の学校」では、すべての子どもが学びやすく活動しやす い学校にする旨を記載しています。 普通学級でも、支援が必要な子どもたちが通いやすい学校にすることは大切なことです。 みんなが同じでなく、個の特性を生かす視点も大切であるため、V-1-(3)-①に記載 した「多様性への対応」では、誰もが自分らしさを発揮して学校が楽しいと思える環境づく りを進めるとしています。	無し	
76	56	4	子どもの支 援	〈特別支援学級、元学級への、取り組みは？〉 残念ながら、今の学校教育においては、「障害児」は、全くの別枠で論じられている。エス ティディージーズではないが、すべての子供は平等に公教育を受けられるはずである。統 合教育が理想であるのに、現在では、特別支援学校が、当たり前になってる。その中で、 唯一光が見える、普通学校での、「特別支援学級(仲良し学級)」に論じている箇所少ない ののがっかりする。 大規模化すれば、本来入るべきでない「理解度不足の児童・生徒(落ちこぼれ)」が「特別 支援学級」に入れられることが予想される。また、現在の学校で、運動会など行事等で元 学級に、かろうじて受け入れられている子供が、大規模校になれば、学校行事の、大規模 になり、「障害児」は全く別枠でしか受け入れられないであろう。残念である。		無し	
77	37	17		19ページの特別支援のことには誤認があると思います。例えば、自閉症スペクトラム障害 の子ども同士では、同じ障害を持っていても、同じ障害と自覚することができません。だか ら、複数いたとしても意味はないのです。それよりも、小さな学校で、教員が見守る方が安 全でしょう。	新しい学校では、既存市内の小中学校の子どもたちが集まるため、支援学級の数は増え ます。増えることで、担当教員間での連携・協体制の強化を図っていく必要があると考 えます。多人数学級や障がいの種によって支援員を配置し、併せて現行の学級あたりの人 数が8人という上限を下げるよう、国や県に働きかけています。	無し	

■ 未来の子どもたちのための新しい学校づくり計画（案） パブリックコメント 意見・回答一覧

通し	意見番号	項目	ご意見	回答	計画への反映	関連ページ	
78	23	2		不登校、支援学級についての内容が薄いのでもっと深く計画するべきだと思います。弱者を将来、社会で活躍出来る人に育てるには小中9年間はとても大事な時期だと思います。現在、相良中学に支援学級があるにもかかわらず生徒の数が少ないのは中学に上がる時に支援が必要な子供も通常学級に入り、そこで苦しくなり不登校になっていることがあると思います。入りやすい、充実した支援の環境があれば1人で苦しむことなく過ごせることもあるのではないのでしょうか？ただ支援学級を充実させるだけではなく不登校生徒を増やさない取り組みも考える必要があると思います。実際に適応指導教室だけではおこなえていないのが現状です。適応指導教室にも行けずフリースクールにも行けず、発達障害と認定されていないので放課後デイも利用出来ず家で苦しんでいる子は沢山いるのでその子達にも目をむけた計画をお願いします。	市では、不登校支援だけでなく、学級に入ることが難しい子どもについては、現在でも、中学校では、別室登校をする場所をつくり心の相談員がサポートに入っています。小学校についても、別室や保健室登校ができるようにしています。 また、新しい学校では、すべての子どもが「学校が楽しい」と思える学校にしたいと考えており、子どもたちが自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立できるよう取り組んでいきたいと考えています。 したがって、不登校については、V-1-(2)-③「不登校児童・生徒等への支援」に記載していますが、不登校の子どもを増やさないこと、登校を渋る子どもの対応については触れていなかったため、日頃から子どもたちに寄り添うとともに、子どもたちの状態や気持ちに合わせて、学級、別室、適応指導教室など居場所や学習機会を保障する場所を選択できることを追加します。		
79	36	1	子どもの支援	学校再編計画を見させていただきました。私は将来ひきこもりにならないよう社会的自立ができるようにとフリースクールを立ち上げました。フリースクールを開所している者としては、不登校児童生徒に対する不安が増大していきます。全国でも増え続けている不登校児童生徒、牧之原市の実態は分かりませんが多分増えていると感じています。学校が大きくなるということは、良い面もありますが、この子どもたちにとってはどうでしょうか？更に増える可能性も秘めていると思います。静岡新聞でも不登校支援について4回に渡って連載されていました。再編に対して不登校又は行きしぶりの子ども達に対する支援が見えてきません。 文部科学省から教育機会確保法が2017年に成立しています。この中で基本指針の一つでこのように書かれています。支援に対しては、登校というのみを目標にするのではなく、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指す必要がある。なお、これからの支援は、不登校児童生徒の意思を十分に尊重しつつ行うこととし、当該児童生徒や保護者を追い詰めることのないよう配慮しなければならないとあります。これはほんの一部の紹介です。 適応指導教室ルールもありますが、選択可能な居場所づくりとして校内にも別室登校ができる部屋の設置や、不登校児童生徒の専門の職員の配置など目に見える支援が必要ではないでしょうか。また、低学年には学習支援サポーターがつくとありますが、学習支援のみならず学級運営のためにも担任が一人では大変だと思うので、状況に合わせたサポーターをどの学年クラスにつけるなどの配慮も必要と考えます。他県では色々な取り組みがなされていて公立夜間中学等も設立しています。今までと同じ視点ではなく様々な角度から取り組んでほしいと考えます。 先生たちに学校教育確保法について再度意見交換をしていただき、より良い学校を目指していただきたいと思ひます。牧之原市の未来の子ども達のための学校づくりを期待しています。	心のサポートについては、V-1-(2)-①「スクールカウンセラーとの連携強化」、②「SSW(スクール・ソーシャル・ワーカー)との連携強化」に記載しています。 スクールカウンセラーやスクール・ソーシャル・ワーカーとの連携により、子どもたちの心のサポートをしています。なお、学習支援サポーターの人数等については、今後詳細を検討します。	V-(2)-③「不登校児童・生徒等への支援」について、内容が具体的に見えるように追加	P19
80	52	1		すべての子どもたちが主役の学校とあるが、不登校や学校に行けない状況にある子どもたちのことになぜ触れていないのか疑問です。具体的な対策案をお願いします。どんな子どもたちにも、勉強面、精神面フォローできるような対策をしてください。不登校児童や保護者のための相談できる、教師ではなく専門の人を学校に配置してください。ただ話を聞くだけのカウンセラーだけでなく、専門知識を持った、不安解消や解決に向けた前向きで迅速な対応ができる人が必要です。その窓口から、必要な治療やフォロー、関係各所への道しるべを示してほしいです。たくさんの友達づくりやたくさんの交流が、苦手な人もいます。こんな子どもにしたいと理想ばかりでなく、いろんな子どもたちがいることを知り、その思いに気づいてください。学校に関わる大人こそ柔軟な理解を持ってください。子どもたちがまず出会う大人、社会人は先生たちです。先生たちに余裕がなければ、子どもとのいい関わり方はできないと思ひます。先生たちにも子どもたちにも、苦しむならない学校になることを願っています。			

■ 未来の子どもたちのための新しい学校づくり計画（案） パブリックコメント 意見・回答一覧

通し	意見番号	項目	ご意見	回答	計画への反映	関連ページ	
81	56	2	子どもの支援	〈不登校児、生徒の問題は？〉 前項の「いじめ」の問題では、「いじめ」を主張する子供、親に対し、否定する教師、学校があり、問題は複雑化・深刻化しているのが、現状がある。しかし、「登校拒否」「不登校」の子供の人数が明らかになってきているので、学校側も否定できないところである。だが、この客観的に明らかにできる、「不登校」のこどもの人数等全く触れられていません。一般的には、小規模校では少なく、大規模校では多いのが実情である。現在の2校の中学校では、各学年とも、一クラスに一人「不登校生徒」がいるのが実態である。再編計画、小中一貫校では、「不登校児童」が多数出現する懸念が大きい。この点からも、進学チャンスをなくし(学校生活変化)、普通の進級にしてしまうのは残念である。	不登校については、全国的に小学校から中学校に進学する際に増加する傾向があり、小規模校だから不登校児童が少ないということはありません。不登校や登校しづりに関する支援は現在でも行っており、今後も大切だと考えています。	無し	
82	10	2		教師の数がどうなるのかもきになります。必要最低限ではなく、充実した配置ができると良いと思います。	教員数は、学級数に応じて人数が決まります。教員は県職員ではありますが、市としても、きめ細かな指導ができるよう市独自の学習支援員、学校図書館司書、言語等の支援員、ALTを配置しています。しかしながら、現在は学校数が多いため、常勤ではなく、学校を巡回している場合もあります。学校再編後は、施設が集約されることにより常勤や複数配置が可能となり、より充実した支援ができるものと考えています。	無し	
83	20	2		お願いですが、今の学校にも魅力を感じることができるよう再編計画以外で現在の学校現場が困っていることへの速やかな対応を確実にお願いします。中学校では特に部活動の方向性が働き方改革に大きくつながると感じますが、その辺への対応の歩みが遅いのではないかと危惧しています。	再編するまでの教育の充実も大切だと考えています。部活動については、令和5年度の地域部活動への移行に向けて、現在、検討組織を立ち上げて協議をしていますが、大きな変革となるもので難しさもあります。さまざまな人の知恵や力を集結させ進めていきたいと思っています。	無し	
84	30	2		今の教員のブラック労働環境や中教審の指針に従う向きも独自性を感じません。	教職員の働き方改革は、既に取り組んでいる課題です。また、牧之原市の学校は公立学校であり、文部科学省の指針に基づき運営することにより、義務教育の効果が保たれるものと考えています。	無し	
85	20	1	教職員	望ましい教育のあり方・学校再編計画と長期的なスパンで市のビジョンを示し、丁寧に対応いただきありがとうございます。 学校再編については必要不可欠なことだと痛感しますが、やはり学校現場にいると、唐突に方針が伝わってくるように感じてしまい、学校関係者(教職員)が受け身の姿勢になってしまうように感じています。それは、学校現場がどうしても現状の諸課題に追われて日々対応しているため、どうしても先のことまで考えられないというのが実状だからです。今後、現場の教職員がこんな学校にしたいという思いを生かしていただく機会、場、組織をつくることで解消していくのではないかと感じます。風は内側から巻き起こさないと渦にならないと思います。ただ、負担感で持続しない取り組みだけでは十分な御配慮いただき、今後の再編計画が夢あるものになることを期待しています。	教職員のみなさんとは、「望ましい教育環境のあり方に関する方針」の検討時から、何度か説明や意見交換をさせてもらいながら進めてきました。これまでは、教育の方向性や学校区という枠についてが主な検討内容でした。しかし、これからは、新しい学校をつくるため、ハード面だけではなく、ソフト面でも教職員のみなさんの知恵や思いを入れてつくる必要があると考えています。教職員のみなさんが新しい学校づくりに主体的に関わることができる、また、新しい学校づくりの過程に思いを入れられるように進めることが伝わるよう、教育内容や学校の運営等について小・中学校合同の研修・交流・すり合わせを計画的に実施することを追加します。	V-5-1(2)研修や学校間交流の充実に「小・中学校合同の研修・交流・すり合わせ」について追加	P25
86	37	13		13ページの「教職員が働きやすく」するならば、小中一貫校は避けるべきです。それよりも、少人数学教を実現した方がいいでしょう。これは、教員の声聞いていない証拠でもあります。			

■ 未来の子どもたちのための新しい学校づくり計画（案） パブリックコメント 意見・回答一覧

通し	意見番号	項目	ご意見	回答	計画への反映	関連ページ
87	46	1	<p>学校再編の背景にある少子化・人口減少・高齢化などの社会情勢は、歴史的に類をみないものだと感じます。ですから、学校再編は非常にデリケートなものであり関係者の心労をお察しします。簡単ではありますが、パブリックコメントをさせていただきます。</p> <p>学校再編については、ハードの問題がクローズアップされています。それは当然ですが、実はソフトの問題のほうが大切なのではないかと考えます。</p> <p>特に、現場の先生方に「牧之原市で教員がやりたい」と思わせるようなソフト面での政策が必要だと思います。静岡県で教員をしている先生は、勤務地を大まかに希望できると聞きます。では、牧之原市を希望する先生はどのくらいいるでしょうか。多いとは言えないと思います。残念ながら先生方にとって牧之原市は僻地であり、勤務を積極的に希望する地域ではないというのが現実ではないでしょうか。</p> <p>また、一般的に地域の文化レベルと子供たちの基礎学力には相関があると言われます。その点で牧之原市においては、子供たちの基礎学力が高いとは考えにくいこと（＝指導に難しさがある）が、牧之原市で働く教員の内象に与える負の影響は少ないと思います。もちろん、むしろそれをモチベーションに変えることの先生も存在していると思いますが、その点で、牧之原市に勤務を命ぜられた教員のなかで「牧之原市に勤務できてよかった」と思う教員は卒直に言って多くはないと思うのです。</p> <p>しかしながら、「これからの牧之原市」においては、保護者も学校に対して協力的であるとか、行政のバックアップが優れているとか、先生方の挑戦を奨励し、失敗に寛容な土壌があるといった印象を与えることができれば、牧之原市で働きたいと思う先生は増えると思います。（また見方次第では牧之原市は、SDGsなまちであるという側面もあると思うので、新しい時代の学習資源にも溢れているとも思うのです。）</p> <p>そして、それが先生方のモチベーションとなり、自己研鑽を生み、他県や海外の学校や民間企業と連携したり、あるいは教育系民間企業のよい部分を公教育に取り入れたりすることで、豊かな教育が生まれ、延いては豊かな学習を生むのではないかと思うのです。</p> <p>そして、それが結局のところ「子供たちのためになる」と考えています。子供たちのためを思うからこそ先生に働きたいと思って貰う必要があると考えます。</p> <p>以上のように「牧之原市で教員がやりたい」と思わせるようなソフト面での政策がなければ、いくら施設を整えても限界があると感じています。</p> <p>例えば、大胆に事務を減らす勇気があるとか、複数担任が制度化されているとか、会議が効率的であるとか、BYODが進んでいるとか、こういったところが先進的であってはおじめて、先生方が積極的になり、優れた教育が出てくるものだと感じます。どうかハードとソフトが効果的に結びついた政策を。</p>	<p>ハードだけ整備だけでなくソフト面の充実が重要であるため、牧之原市ではまず望ましい教育環境についてソフトとハードの両面からどのような教育を目指すかを検討いたしました。牧之原市では、これら検討に基づき再編前からソフト（教育の中身）の充実に取り組み、再編においては、更にハード面の充実を図るという教育環境づくりをしているところであります。</p> <p>教員には所属する地区があります。牧之原市は、吉田町、川根本町との1市3町で構成される「榛原地区エリア」となり、教員は基本的には地区内の。市では、この再編によって、牧之原市に勤務したい、勤務できてよかったという教員が増えるよう教育環境や勤務環境の改善に取り組んでいきます。これにより、教員のモチベーションを上げ、やりがいを持って働いてもらいたいと考えています。</p> <p>今後、義務教育学校の学校運営、カリキュラム、学びや生活のルール等、教員が中心となって検討していく内容がたくさんあります。子どもたちのために、思いを持ち、一緒に取り組むことができるよう働きかけや検討の仕組みづくりをしていきます。</p> <p>また働き方改革は、再編前から取り組む課題であると認識しています。</p> <p>教員がやりがいを持ち働くことができるようにすることが伝わるよう、教員がさまざまなことに挑戦でき、やりがいを実感できる環境をつくることを追加します。</p>	<p>V-5-(1)のタイトルを「やりがいを持ち働くことができる環境づくり」に変更 「やりがいを実感できる環境をつくること」を追加</p>	P25
88	20	3	<p>再編されると、学校の規模は大きくなりますが、学校数は極端に減るため、今までの校長会組織を始め教育会などの組織対応が難しくなると感じています。また、榛原地区として吉田町、川根本町と一緒に括りて諸事業を進めている部分もあるため、今後はこの榛原地区をどうしていくのかと言うことも大きな課題となってきます。よって、再編計画と同時に今ある組織をどのようにしていくのかの方向性も定めていくことが必要になると考えます。</p>	<p>市や地区の教職員組織をどのようにしていくのかは大きな課題です。学校再編計画が策定されましたら、方針を定め新たな組織の形をつくる必要があると考えています。</p> <p>教職員が検討する内容のため、計画に載せていませんでしたが、必要性を共有するために、教職員組織のあり方を協議する旨を追加します。</p>	<p>V-5「生き生きと働くことができる職場」の(4)として「教職員組織のあり方」を追加</p>	P26
89	28	1	<p>施設の機能も大切ですが、シンプルで快適であれば、教育の中味や「人」にお金を使ってもいいです。先生が元気がなければ学校に活気は生まれません。子どもたち一人一人をよく見て、認める指導ができるよう、先生の資質の向上を願います。</p>	<p>教職員は、家庭の次に子どもたちに近い存在であり、学校での指導は子どもたちに大きな影響を与えます。</p> <p>教職員の資質・能力向上のため、また新しい学校づくりのため、今後も研修を行っていくとともに、「みんなで子どもを育てる」という共通理解を持ち、学校だけでなく、家庭、地域とともに子どもを育てていきたいと考えています。</p>	無し	
90	29	1	<p>〈スクールソーシャルワーカー〉 「今まで以上に時間を確保し」→現状の教員の勤務時間で確保可能なのか、教員の実態把握をできているのか</p>	<p>現在配置されているスクール・ソーシャル・ワーカーは、学校が集約されることにより1校に関わる時間を多く取ることが可能になります。</p> <p>また、スクール・ソーシャル・ワーカーは教員ではないため、教員の新たな時間を確保するというものではありません。</p>	無し	

■ 未来の子どもたちのための新しい学校づくり計画（案） パブリックコメント 意見・回答一覧

通し	意見番号	項目	ご意見	回答	計画への反映	関連ページ
91	26	1	学校を合併されるのは賛成ですが…相良地区は菅山に建てる予定だと聞きましたが、今ある御前崎中学校ではダメなんですか？牧之原市なので校舎も土地もあるのもったいないと思います！ 菅山だと、土地購入からですよ。体育館は新しい校舎が古いんであれば校舎だけ建て直せばいいと思うんですが。 津波の心配も無いと思います！	学校の場所については、相良地域は相良総合センターい〜らから相良総合グラウンド周辺としており、具体的な場所はまだ決まっていません。津波浸水想定区域外でできるだけ多くの児童・生徒が徒歩または自転車で通うことができる場所としたいと考えています。 御前崎中学校は、学校組合の所有であるとともに、多くの児童・生徒が徒歩または自転車で通うことができないため、相良地域の候補地としていません。	無し	
92	2	4	地頭方地区をはじめ榛原地区、そして相良地区の沿岸部に居住する市民の日常生活や資産価値が考慮されずに学校の移転先候補が定められている。相良小学校・中学校、川崎小学校、細江小学校は用地地域内でも人口集中地区内にある学校である。移転ではなく、沿岸部のL2対応の防潮堤整備を早急に行い、これからも沿岸部で居住している全人口の約7割を占める既存の牧之原市民が安全に暮らしていけるまちづくりをすべき。	新しい学校の場所については、津波浸水想定区域外で市街地に近接する内陸に造ることは、市都市計画マスタープランとの整合が図られています。 学校再編計画策定委員会がまとめた計画素案においても、「児童・生徒が安心して学べることを最優先とし、災害に対して安全な施設とすることが重要」として校地選定の最優先事項として掲げられています。 また、地域等で行った意見交換会においても多くの津波に対する不安の声が聞かれました。現在、津波浸水区域内の学校では、津波が来ない場所に迅速に避難する訓練をしています。子どもたちの命を守るため、新しい学校は津波浸水想定区域外で安全な場所とし、子どもたちも保護者も学校に来る地域の方もみんなが安心できる学校とすることは、市の責務であると考えています。		
93	2	2	榛原地区の再編移転先が都市計画法上の用地地域外。常識的に考えて移転先候補としてはあり得ない。この計画とおりの場所に移転した場合、沿岸部の用途地域内の人口が加速度的に減少することは間違いない。学校、特に小学校(中学校)は、児童生徒をはじめそこに居住する市民の生活に密着している。移転するのであれば榛原地区の現在の用地地域内もしくはそれに接する場所に移転するのが合理的			
94	9	1	校地 相良区です。場所はい〜らから総合グラウンドとのことですが、地震や津波での避難生活を考えた時に、低地に住む須々木区、波津区からたくさんの方が一番近くの高いところを目指すと思います。 数時間数日間、浸水していないところを通り家族を探すとなるとい〜ら周辺が良いと思います。ミルクィーウェイを通れると言われそうですがミルクィーウェイは浸水するのでは…津波浸水想定区域外でも津波が来た時にミルクィーウェイには怖くて避難できません。よろしく願います。		無し	
95	60	1	計画案を読みました。意見はたくさんありますが、特に重要と考える部分を意見させていただきます。 ①安心・安全を最優先してください。 ②現在浸水域にある学校の生徒を安全な学校へ移動できるようにしてほしい。 ③IV3にある学校の場所の条件2の削除を希望します。安心・安全な場所を最優先!! ④1校にすると防災が難しい			
96	2	3	相良地区については、相良小学校・相良中学校とも相良城址に位置しており、校章も田沼意次公の七曜紋をかたどっている。歴史ある相良地区の誇りである相良城址から移転することについて地域のアイデンティの崩壊の一因になりかねない。教育の場は、ただ単にその場所があればよいということではなく、歴史的、地政社会的に位置づけられた場である。そういった地域の歴史や文化を大切にしない移転は教育の場として適切では無い。			
97	1	2	施設建設について意見があります。2ヶ所、新しく校舎を新設されるみたいですが、今ある校舎の活用は考えないですか？増設などです。学校の新設は莫大な建設費がかかるでしょうし、今ある、旧の校舎を維持していく(きっと災害時などの避難所や何かになるのでしょうか?)ことも必要で、維持に金額がかかりますよね？	現在の校舎は、築40年から50年を超えるものが多く、老朽化により、今後、長期間にわたって使用していくことができません。また、毎年、多額の修繕や維持費が掛かっており、現校舎の構造的にも現在求められている教育にすべて対応できない状況です。II-3「施設の状況」、IV-3「学校の場所」に記載しておりますが、これら現在の学校施設の多くが津波浸水区域に所在するなどを考慮すると、新たな場所に、安全安心で、これからの教育に適した新校舎を建設することが必要と考えます。	無し	
98	33	1	各教室や図書館、グランドや駐車場など考えて敷地面積はどれ位になるのでしょうか？大き過ぎることはないのでしょうか？	新しい学校に必要な面積を3haから5haを想定しています。現在の榛原中学校は、約5haですが、同等の敷地面積になるものと考えられます。	無し	

■ 未来の子どもたちのための新しい学校づくり計画（案） パブリックコメント 意見・回答一覧

通し	意見番号	項目	ご意見	回答	計画への反映	関連ページ	
99	25	5	施設	<p>コロナ感染症に対応した設備とスペースの確保とありますが今の段階での具体的な案を知りたい。 断熱性の確保と冷暖房等による熱中症対策とありますが全教室(音楽室、パソコン室等を含める)にクーラーを設置する予定でいるか知りたい。遠隔、オンライン授業に対応できる設備とありますが全教室(音楽室、パソコン室等を含める)にWi-Fiが繋がる環境を整える予定でいるか知りたい。</p>	<p>今後検討される事項となりますが、感染症対策としては、教室の広さとする、換気機能がそなわる空調設備の導入、非接触の水栓等にするなどが考えられます。また、冷暖房等は全館、Wi-Fiも体育館を含め、どこでもつながる環境としたいと考えています。</p>	無し	
100	29	2	施設	<p><ICTを活用した支援> 具体的に何をどうやるのか。設備にどれだけの予算を投資できるか、そもそもどういう設備が必要なのか。教員の負担はないのか。ネット環境が整っていない生徒への対処法はどうするのか。</p>	<p>今後検討される事項となりますが、学校再編に当たっては、ICT教育の今後の国の方針等も踏まえ、機器や設備の整備を検討してまいります。 インターネット環境が整っていない家庭への対応については、学校再編とは別に対応してまいります。</p>	無し	
101	29	3		<p>・教室空間の整備 具体的な方法が書かれていない。 高速通信可能なネットワークに順応できる端末を生徒側は使用しているのか。 →予算節約のためのChromebookは論外。プロジェクターの活用と多角的な活動の関係性は？</p>			
102	31	3	施設	<p><図書室の機能を充実させてほしい> 本を読まない若者が増えているように感じるが、それは子供の頃に素晴らしい読書経験がなかったからではないかと思う。 様々な本を読むことで語彙も増えるし、エンパシーも身に付き、良い本に出会うことはとても大切なことだ。 新しい図書室では、本に出会うための機会をたくさん設けてほしいし、外国語の本を置いてみたり、読むのは苦手だという子供のためにオーディオブックを用意してみたりと、工夫してもらいたい</p>	<p>学校図書館は知識や心を育むためにも大切な機能であると認識しています。VI-1-(3)の学校図書館については、学校図書館を充実する表現に変更します。</p>	VI-1-(3)のタイトルを「学びと情報の中心となる学校図書館の充実」に変更	P28

■ 未来の子どもたちのための新しい学校づくり計画（案） パブリックコメント 意見・回答一覧

通し	意見番号	項目	ご意見	回答	計画への反映	関連ページ	
103	65	1	施設	旧片浜小学校と2015年辺りからずっと関わってきましたが、学校という建築上のカテゴリーにとらわれすぎない建物であるべきかと思えます。全国に大量生産された戦後標準設計(1949)型RC校舎は、廃校になってリノベーションする際にかかりの無理が生じてきます。最初から廃校後の事を考えるのも変な話ですが、「実際に考えてこなかったツケが今回ってきている」ことを踏まえれば、やはり未来のことを蔑ろにすべきではないと思えます。具体的には、あらゆるプログラムに耐えられる建築、あらゆる設備・あらゆる改修に対応できる建物が必要です。設備の更新や強度補強など、維持費の問題も馬鹿にできません。それらを踏まえて、過去に例のない校舎の提示を全国に先んじてすべきかと思えます。生徒と空間を更新したり、完全デジタル対応、サーキュラーエコノミー対応だったり、可変性を担保しながらコストを抑えて新しいものをつくることに挑戦してほしいです。高台移転は人口減少が激化する牧之原市において希少な一手です。どこにもでもあるような学校を適当に建てて、そのチャンスを見逃すことだけはしてほしくありません。未来と全国を見据えた、責任のある設計を願います。コロナを経て都内の不動産は下落していくと予測されていますが、これは地方にとってまたとないチャンスです。私自身もコロナ以前まで東京に住んでいた未就学児を持つ身ですが、目立った活躍をしている学校圏は、都内からしてもとても魅力的です。教育施設は重要な地域拠点であり投資先だからです。かつての牧之原でも、C.A. ペリーの『近隣住区論』を細分化したような小学校単位のコミュニティが成り立っていましたが、現在の出生数(市全体で200程度)では夢物語です。現場では新しいコミュニティ形成が急務となっていますので、近隣住区論を更新するような地域拠点として小学校を位置づけることも鍵となってくるかと思えます。具体的には従来の「閉鎖的な一元コミュニティ」を越克した、重層的な「マルチレイヤードコミュニティ」が目指せるのではないかと考えています。全国には歴史を更新してきた学校建築が多々あります。集落のような那覇市立城西小学校、「壁がない」ことで有名な千葉市打瀬小学校、L壁で空間を分けた宇土小学校、移住者殺到の流山市立おおかかの森小・中学校、寄宿舎付き校舎のChildren Village。サマーヒル・スクールやバウハウス校舎、ソーク研究所、ロレックス・ラーニング・センターまで含めてもいいかもしれません。それほどのインパクトを持つ学校を、ここ牧之原から出してほしいと心から願っております。	子どもたちが通いたい、保護者が通わせたい、さらに教職員が働きたいと思えるソフトハードが充実した学校にしたいと考えています。学校再編計画が策定されると、令和5年度から新しい学校区ごとい学校施設整備基本構想・基本計画の検討が始まります。ここでは、学校のコンセプト、教室数、配置等が検討され、設計につながる基本的な考え方を示すものとなります。子どもたちの居場所にもなり、教職員が働きやすく、地域の人々が来やすい、そして、魅力的で市外からの人も呼び込める学校にしていくため努力していきます。 変化や改修などに対応でき、維持管理がしやすい施設にするべきだと考えています。Ⅲ-4-3「安全・安心な学校」の説明では、「長期的に管理しやすい施設とします。」としています。また、目指す学校像の概念図においては、「適正な管理ができる規模と質」、「メンテナンスのしやすさ」を盛り込んでいますので、Ⅵ-3「安全・安心な教育環境」の項目として「長期的に管理しやすい施設」を追加します。	Ⅵ-3-(2)「長期的に管理しやすい施設」を追加	P30
104	7	1	通学	通学路に街頭が少ないのが気になります。距離が遠くなり、小学生には酷かと思えます。バスをだしてください。	Ⅴ-3-(3)に記載しておりますが、通学手段としては、遠距離の場合はスクールバスの利用を想定しており、路線バスや市バスとしての運用も含め、市公共交通の視点からも検討していきます。具体的には、令和4年から検討する学校施設整備基本構想・基本計画において検討することになりますが、子どもたちや保護者の負担が大きくなりないように考えていきます。	無し	
105	38	1		学校再編で一番心配なのは通学方法です。現在、小学校から自宅まで片道3kmあり、登下校、全て車で送迎をしており、仕事にも影響が出ています。最近、高齢者ドライバーの事故や性犯罪などのニュースが多く、また、通学路にお手洗いを借りることができるコンビニもありません。再編をした場合、スクールバスを出していただけるのかとても心配です。			
106	33	9		スクールバスではなく市全体を運行する市バスを循環運行させるのが市民にとってのメリットだと思う。			
107	33	8		徒歩の距離2.5キロと決めた基準は？実際低学年が荷物を持って歩く距離にしては長い			

■ 未来の子どもたちのための新しい学校づくり計画（案） パブリックコメント 意見・回答一覧

通し	意見番号	項目	ご意見	回答	計画への反映	関連ページ
108	8	2	スクールバス等移動手段で負担を強くないでいただきたい。しっかりと動向を観ておりますので宜しくお願いします。	V-3-(3)「通学環境の整備」に記載しておりますが、通学手段としては、遠距離の場合はスクールバスの利用を想定しており、路線バスや市バスとしての運用も含め、市公共交通の視点からも検討していきます。	無し	
109	17	1	通学エリアが広がることにより、徒歩通学、バス通学に別れることになると思われます。通学距離による生徒の負担差、家庭の負担差、通学費の負担差等、格差が出ないようにしていただきたいです。格差が出てしまうと地域の過疎化も出てくると考えられます。	具体的には、令和4年から検討する学校施設整備基本構想・基本計画において検討することになりますが、子どもたちや保護者の負担が大きくなるように考えていきます。バス停や便数等については、通学する子どもの保護者等を中心に、開校数年前から検討する(仮)開校準備委員会で協議したいと考えています。		
110	37	19	23ページ、通学手段に「スクール・バス」のことが、有償が無償をはっきりさせないのは無責任です。坂部の中学生たちは仁田坂を上り下りすることがかなり危険な状態でありました。事故も起こっています。また仁田坂を越えた後に、グリーンパルの坂道を上るのは、さらに危険が増加します。「安全・安心」とかけ離れています。			
111	25	6	自転車を利用する学年の設定、バス代の有償無償については来年度から新しい学校ごと協議とありますがバス停、バスの時刻、1日に何本バスが出るのか、乗り遅れた場合はどうすればいいのか知りたい。			
112	10	1	友達が増えるのでとても良いことだと思いますが、バス通学が増えるため、その分運動する機会を増やした方が良いと考えます。	バス通学の場合、集合場所をどこにするか、また、乗降場所を学校のどこにするのかにもよりますが、子どもによっては歩く距離が少なくなることも考えられます。子どもたちの体力づくりについては、今後の検討課題だと思います。		
113	5	1	校歌を谷川俊太郎氏に作詞してもらえたらいいと思います	新しい学校の校歌等については、VII-1「推進方法と体制」に記載いたしました。開校数年前から(仮)開校準備委員会で協議される予定です。ご意見につきましては、参考にさせていただきます。	無し	
114	31	1	開校準備 <校則のあり方について検討してほしい> 昨今、各地で校則のあり方について議論が為されているように、これまでの校則がどういう意図で作られたものなのか、現代の子供たちの権利を守りながら有効にまとめられたものなのか、新設される学校でもよく考えてほしい。 例えば、髪髪服装の自由化。制服はあってもいいし、なくてもいいが、もしあるのであれば、スカートやスラックスの選択をできるようにしておく、など。	新しい学校の校則等については、開校数年前から(仮)開校準備委員会で協議される予定ですので、分かりやすいよう 検討事項の例示に校則を追加 します。ご意見につきましては、参考にさせていただきます。	VII-1「推進方法と体制」に検討内容の例示を追加	P33
115	18	2	コミュニティ 地頭方など、学校から離れている地区の地域住民もサポート要員として学校へ参加して行きたいです。	V-4「子どもの学びと地域の学び」では、コミュニティ・スクールの推進や地域との関わりを記載していますが、新しい学校においても、地域住民が学校に気軽に足を運ぶことができるようにしたいと考えています。子どもたちのサポートのため、または自分たちの学びのために学校に来ることが考えられます。コミュニティ・スクールでは、地域と学校の関り方、子どもとの関り方等も検討し、「みんなの学校」にしていきます。ぜひ、ご協力をお願いします。	無し	
116	37	12	10ページの「みんなの学校」は小中一貫校にするより今の状態こそみんなの学校であると思います。	令和元年度からコミュニティ・スクールを導入し、地域の人がより学校に来やすく、一緒に子どもを育てることができる仕組みを構築し始めています。新しい学校においても、これらの仕組みが継承できるよう既に取り組みを始めています。	無し	

■ 未来の子どもたちのための新しい学校づくり計画（案） パブリックコメント 意見・回答一覧

通し	意見番号	項目	ご意見	回答	計画への反映	関連ページ
117	33	10	コミュニティスクールを今後持続させていくためにも市民の協力が必要であって、納得させる説明会ではなく市民との話し合い協働がもっと必要だと思う	子どもたちに地域愛を育むため、地域と学校が一緒に子どもを育てることができる仕組みとしてコミュニティ・スクールを全校に設置しました。コミュニティ・スクールについては、現在コミュニティ・スクールの活動をしていてくださる方を中心に、再編に向けてどのようにつなげていくか検討していきます。 再編後も、引き続き、子どもたちに地域愛を育むことができるコミュニティ・スクールにしていくことを明記します。 また、市民との話し合いや協働はとても大切だと考えていますので、引き続き行っていきます。	V-4-(1)「コミュニティ・スクールの推進」に「子どもたちに地域愛を育む」ことを追加	P24
118	37	7	8ページに「次代を切り拓く力」を育むために、「コミュニティ・スクール」を作ると書いてあります。しかし、このような広域の学校区でいから「コミュニティ・スクール」をつくるのは、並大抵ではありません。すでに、コミュニティ・スクールは市内の小規模校で成熟したものがあります。統合はこの貴重なコミュニティを破壊することになります。だから、コミュニティ・スクールを作ることは、一貫校を作る目的ではないといえます。			
119	57	6	地域が広くなりすぎると地域で子どもを育てることが掛け声に終わることを危惧します。			
120	59	1	財政面から仕方がない統合だとあきらめ、新しい学校でそこできる学びをしてほしいと思います。そして、そこに地域や市民との繋がりを作ってほしいです。学校再編で心配なのは、コミュニティスクールを中心に協力していただいているみなさんの活躍の場がなくなってしまうこと、地域の核となる拠点を失うことです。			
121	63	2	現在の小学校区の地域や文化や伝統を学べるように工夫して欲しいです。子供たちを地域で育んでいくという気持ちをみんなが持つようになるにはどうすれば良いか地域毎に考えて行きたいです。			
122	64	1	スクールバスの活用で一点集中型の学区を推し進めているようだが片浜小学校廃止で地域の熱を奪い地域コミュニティを奪った 貧乏を振りかざす市を知る親が子に牧之原愛なんぞ憚れる ほとぼり冷めたらスクールバス廃止すら言い出しそうな疑心感 それよりも校舎を簡素化公民館や寺レベルの箱にして学区を細分化してはどうだろうか 教師の教や予算もあるだろうが考える価値はあるだろうに 地域に生まれ地域に生きる意識を親が思い出し子達に感じてほしいのですよ	片浜小学校統合の際には、市全体の教育の方針をつくり、それに基づき統合を考えるべきであるのご意見をいただいています。 今回、市では、平成29年度から望ましい教育環境のあり方に関する方針を検討し、牧之原市の子どもにつけたい力、そのためのソフトとハードを方向性を示しました。 片浜小学校が統合して1年経過した際の子どもたちのアンケートでは、全員が「学校が楽しい」と回答されています。また、保護者の方からは、「子どもが楽しく通ってくれているのがよかった」とお話をいただいています。 片浜地区については、まちづくり計画を策定し、それに沿った跡地の利活用がされています。 また、今回、学校と地域とつながることができるよう、地域と学校と一緒に子どもを育てることができる仕組みとして、コミュニティ・スクールを全校に設置しました。より多くの人に学校に関わってもらい、関わっている方を中心に、再編に向けてどのように繋げていくか検討しております。	無し	
123	57	8	学校は子どもたちの教育の場ですが、地域の避難所としての役割もあります。集約により災害時に距離的に市民が避難できないおそれはありませんか。	様々なご意見、ありがとうございます。 IV-1「推進方法と体制」の後段に記載していますが、既存学校施設の利活用については、令和4年度から検討します。	無し	
124	1	4	残されたハコモノの活用も併せて、考えたいかがでしょうか。（活用は教育委員会だけが考えるのではなく、民間も含めて地域全体で考えていくのがいいと思います。）			
125	63	3	地域のコミュニティ拠点として小学校の跡地が活用されるような仕掛けを地域のみんなで考え作って行きたい。そのためには絆づくり事業の継続が必要だと考えます。			
126	51	3	跡地利用 廃校になる既存の学校敷地についてはこれから検討して行くのかと思いますが、新たに何か商業施設や建物を建てるのではなく、むしろ何も無い広場があればいいな、と思います。NYのセントラルパークのようなイメージで、綺麗な芝生や木々がありピクニックや散歩、トレーニングなど海沿いから川沿いまでできたり、横須賀にあるうみかぜ公園のような、自然を活かしたマウンテンバイクコースやスケートボードエリアなどがあれば、自然豊かな牧之原らしさを出すことができるのではないかな、と思います。			
127	59	2	学校跡地をコミュニティの場としても活躍してほしいです。そして、それをみんなで1から考えて自分たちで作っていく。そんな取り組みもしてほしいです。新しい学校が市民みんなの学びの場にもなるような、そんな提案を今後、仲間と共に行きたいと思っています。市政と市民と一緒に作る学校にしていだければと思います。			

■ 未来の子どもたちのための新しい学校づくり計画（案） パブリックコメント 意見・回答一覧

通し	意見番号	項目	ご意見	回答	計画への反映	関連ページ	
128	37	15	まちづくり	17ページの「牧之原市に住みたいと思う人を増やす」ことは小中一貫校ではないと思いません。むしろ、意識の高い家庭では、私立小学校へ入学させるでしょう。これは伝聞ですが、牧之原市の小中一貫校を知った若い世代が、牧之原市に住むことをやめたというのです。	新しい学校をつくることは、安全・安心で、子どもたちの学び、育つ場所として望ましい教育環境を整備することが目的です。市総合計画とも連動しながら、通いたい、通わせたいと思われる魅力的な学校を目指しています。また、牧之原らしい自然豊かな環境で、リアルな体験とオンラインを活用した教育活動も行っていく予定です。	無し	
129	37	24		小中一貫校を進めることは、少子化対策に背中を見せている姿勢だろうと思います。市は、少子化対策に打ってでるべきです。			
130	60	3		牧之原市の現状はⅡの図を見て分かりました。企業（働く場所）はあるのに、生活は他市へ行ってしまうのですね。なぜ子育てをこの市でやらないのかの検証をしてほしいです。			
131	60	4		若い世代を呼び込むには「少人数教育ができる牧之原市」が魅力的だと思います。自然豊かでのびのびと育てられる市のイメージが必要。大都市ではできないことです。市のビジョンが重要です。			
132	1	3	将来負担	それを子ども世代に負担させるのは負の遺産と同じで好ましくないと考えます。	学校再編に係る費用を現役世代だけが負担することは、税の公平性上の課題があります。40年、50年使用する学校施設ですので、将来利用する方もその費用を負担する世代間の公平の考え方のもと、進めていきたいと考えています。ただし、過度な負担とならないよう、適正な管理ができる規模の学校とすることを追加します。	Ⅵ-3-(2)「長期的に管理しやすい施設」に「適正な管理ができる規模」を追加	P30
133	37	2		校舎の建設費も明らかではありません。国から半分出ても、後半分は市の負担です。市の負担がどの程度あるのかははっきりさせて欲しいです。	新しい学校をつくるために必要な建設費は、1校60億円程度と試算しています。国庫補助金以外の建設費については、多くが市の起債（借金）となりますので長期間の返済していくこととなります。この返済部分についても、なるべく国からの財源（地方交付税）が充てられるよう工夫をしていきます。	無し	
134	45	2		学校再編にあたりコストがかかると思いますが授業料は現状より多くならないようにお願いします。子育て世代の負担をこれ以上増やさないでください。バス通学についてですが料金の設定はこれから、とありますが市で負担してください。	学校を再編しても、義務教育には授業料はかかりません。通学方法等については、令和4年度から検討する「学校施設整備基本構想・基本計画」において検討していくこととなります。	無し	
135	22	1	市民意見	学校再編には基本的は反対です。結果ありきで計画は進んでいると思われれます。昨年1月に質問状をお送りしましたがその返答もありません。削除されたのでしょうか。	学校再編については、令和2年度に2校案についての賛否を含めたご意見を意見交換会やアンケートにていただいておりますが、反対は少数でした。そのため、2校への再編を念頭に今年度はさらに検討をさせていただいたところです。昨年いただいたご意見については、意見募集でいただいたご意見として、アンケートや他のインターネット等からいただいたご意見とともに、計画素案をつくる際の参考とさせていただきます。	無し	

■ 未来の子どもたちのための新しい学校づくり計画（案） パブリックコメント 意見・回答一覧

通し	意見番号	項目	ご意見	回答	計画への反映	関連ページ
136	30	1	前提として、https://youtu.be/OdcVvYoOfkA「日本って何だ、本田由紀著」教育は何を評価してきたのか 本田由紀著」くらいは理解してから、計画してください。 これまでの課題やこれからの子どもから大人になるまでの必要な流れをどこに問題あるかなど、共有がなければ、計画問題も見えてこないと考えます。再編計画を通して、住民に子どもが、地域社会の共有財産だという認識を高めるような仕掛けが必要です。その中から子どもの意見を拾う努力や、先進的な教育をやっている島根県など研修を市民を巻き込み計画することで、我事化することを望みます。そのためには、牧之原市は今後どのような町の方向性なのかを明確に示して欲しいです。	<p>これまで、牧之原市では、学校再編ありきで検討するのではなく、「子どもたちにとって今後どのような教育環境が必要か」という視点から、平成29年度から市民参加で検討してきました。この検討では、市民のみならずと一緒に学ぶことから始め、講演会や視察を行い、そこから牧之原市の教育を考えてきました。島根県だけでなく、京都市、つくば市等さまざまな教育先進地の内容や形態、施設等を調査してきたところです。平成29年度から現在まで、高校生、保護者、地域、教員等との市民参加の機会は118回におよび、延べ4,000人以上の方から5,000件を超えるご意見をいただいています。今回の学校再編計画(案)は、それらを積み上げたものとなっています。学校再編計画は策定して終わりではありません。子どもたちにとってよりよい学校、よりよい教育環境となるよう、ここから更に教職員や市民のみならずと作り上げていきたいと思っております。</p> <p>なお、計画の策定の経過などについては、議会の皆様にも情報提供させていただきながら進めています。</p>	無し	
137	37	20	27、28ページに「柔軟」という言葉が出てきます。もしそれが本意なら、この計画に対しても柔軟に市民の意見を聴いて欲しいと思います。			
138	45	3	今後もこのように保護者の意見を聞く場を定期的に設けてほしいです。また決定事項等があったら都度、報告をお願いします。			
139	57	3	親世代の声や地域の人やこれから親になると思われる中高生の意見を把握しているのか疑問です。			
140	57	5	片浜小学校閉校後の片浜地区の変化や地区民の意見を聞いてください。はりばら塾で旧片浜小学校に行くのですが、時計は当てにならないし(遅れているまたは止まっている)、廊下に埃が舞っておりトイレもきれいではない。子どもたちがいないとさびれます。			
141	37	3	小規模校の関係者は市の中で少数派です。結局、多数が住む人たちの意向が、結果となってしまうこともフェアーではありません。多数決で決めるのも理不尽です。1970年代の中学統合も、少数の中学の生徒の通学のことを配慮されませんでした。イジメ、不登校もかなりありました。また、このような大規模校に少数の幼稚園児や保育園児が入学すれば、どのようなことがあるかは、考えられていません。昨年の市議選ではまったく争点になりませんでした。もっと、教職員を含めた丁寧な説明と話し合いを求めます。			
142	54	1	決定するにはまだ早い。市民の意見を聞いてください。議会での議論、承認が必要です。			
143	37	1	つい最近までこの統合計画を多くの市民が知りませんでした。ギリギリになって説明会などを開いていますが、これでは足りません。また、検討委員会では、専門家や教員の占める割合が少なく、素人集団(委員男経歴が未公開でしたから)でした。このような大きな計画には、たくさん専門家や教員がかかわるべきです。特に、小学生についての議論が、その特殊性を踏まえていません。初等教育の専門家がいないのは危惧します。保育と同様初等教育はその専門的な知識や経験が必要です。それにほとんど配慮がないのです。	学校再編計画については、令和元年度から検討していますが、その元となる「望ましい教育環境のあり方に関する方針」については、平成29年度から検討しています。パブリックコメント前の最終的な市民参加の場として説明会を実施させていただきましたが、今年度は、他に、保護者、地域、教職員、高校生との意見交換を開催しております。検討のスタート当時から市民参加の勉強会や意見交換会を実施し、平成29年度から現在までの実施回数は118回、参加人数は4,000人以上、意見数は5,000件以上となっております。また、ホームページだけでなく、広報まきのほらでも何度か特集記事を掲載させていただいています。	無し	
144	37	21	検討委員会のメンバーの経歴さえプライバシーを理由に公開されていません。もし、専門家がかわったならそれを公開すべきです。学校は学習をする場です。学問的な観点から発言すべきです。	学校再編計画には、さまざまな視点が必要だと考えております。そのため、審議会である学校再編計画策定委員会では、専門的な知識を有する者として、静岡大学教育学部教員、一級建築士を持つ県職員をお願いしています。その他、教員代表、自治会代表、保護者代表、一般公募の計10人で構成し、教育の視点だけでなく、地域、保護者、子ども等さまざまな視点から議論してきました。		
145	62	1	知人からこの学校再編計画を聞き、初めて知りました。牧之原市の公式ライン登録もしていますが、計画の情報、オンラインによる計画説明についてお知らせはありませんでした。学校再編計画の情報は、一部の人にしか周知されていないのでしょうか?計画を知らない市民が多いくると思います。もっと広く市民に周知していただき、大勢の意見を聞いてから計画をご検討いただきたいと思っています。	学校再編計画の検討については、ホームページや広報まきのほらでお知らせをしており、説明会やパブリックコメントなどについては、市の公式LINEでもお知らせしています。2月に開催しました保護者のオンライン説明会については、まきはぐのメールで2回お知らせし、チラシについては、幼稚園、保育園、こども園、小学校、中学校、子育て支援センター、児童館、予防接種会場等で配布させていただきました。全市民を対象としている者については、LINEとホームページ、保護者限定としているものは、まきはぐとチラシの対応とさせていただきます。今後も、さらに多くの市民に知ってもらえるよう情報提供をしていきます。	無し	

■ 未来の子どもたちのための新しい学校づくり計画（案） パブリックコメント 意見・回答一覧

通し	意見番号	項目	ご意見	回答	計画への反映	関連ページ	
146	50	1	市民意見	他の自治体が同様の課題を抱えている中、丁寧にしっかりと進められています。各委員会等の場だけではなく、市民意見を聞く場をしっかりと設けるのは大変難しいことです。しかしながら、毎回の意見交換会において、段階をしっかりと踏みながら、参加者に合わせた資料提供が出来ていたこと、また職員の目的意識がしっかりとされていたことが、本計画の適切な進捗に繋がっていると感じます。意見交換会においては、なかなか未来の人口減に対して現実感を持っていない市民が多く居ることも現状です。予測のデータとはいえ、現実に対する意識づけを更にする必要性も、ご検討頂けたらと思いました。今後も、再編計画に合わせた細かな内容について、市民の意見を確認しながらの（出来れば今まで以上に幅広い、特に若い世代から）、より良い学校づくりを期待します。	新しい学校づくりの検討に当たっては、今まで以上に保護者、教職員、地域、そして子どもたちの意見を聞く機会を設け進めます。より多くの人に現状を適切に伝え、子どもたちの未来のためによりよい学校をつくることできるように努めます。	無し	
147	37	22	市民意見	昨年(令和3年)12月に行われた「牧之原市学校再編計画 地域説明会」の記録がまだアップされていません。これを公開せずしてパブリック・コメントを締め切るのは、強引すぎます。アップして一ヶ月はにおいてパブリック・コメントを締め切るべきです。	12月に実施したい説明会は、今回の学校再編計画案に反映させるためのものであり、この説明会でいただいた意見も含め計画(案)の修正を検討いたします。	無し	
148	49	1	市民意見	学校再編計画については、以前から機会があるごとに、市民全体への周知及び理解には時間が必要なので十分すぎるほどの対応が必要であるとの意見を述べさせていただいてきています。学校再編は単に教育の問題でなく、まちづくり、地域づくりの問題です。学校関係者、児童・生徒及びその保護者だけでなく、市内のあらゆる立場の人々が当事者意識をもってどんな地域をつくっていくのか考える場を設けて計画に反映していく必要があります。これは相当困難なことで、今示されている計画の日程では間に合わないと思います。もちろんこのパブリックコメントも大切ですが、さらに総力をあげて意見集約や協議の場の設定に努めていただきたいです。そして、その内容をできるだけ分かりやすく市民に伝えていただきたいです。	学校再編計画が策定された後、新しい学校ごとに、具体の検討が始まります。そこでは今まで以上に、保護者、教職員、地域、そして子どもたちの意見を反映していく必要がありますので、わかりやすい情報発信に努めてまいります。	無し	
149	12	1	市民意見	9年間給食にしていただけると助かります	再編後の学校においても、9年間、学校給食を提供いたします。	無し	
150	28	2	市民意見	子どもの成長には家庭の力は不可欠です。親さだでと言ったら大げさかもしれませんが、少しだけ家の人を巻き込む宿題を出すなどして、学校を知り、関心を持ってもらい、子どもと共に親も成長していければ、一人や二人は不登校にならずにすむ子どもいるかもしれません。	先進地では、教育のねらいや授業計画等が記載した「シラバス」を家庭と共有しているところもあります。家庭と学校が一緒に子供たちを育てるため、どのような関わり方や情報共有が必要かを考え、みんなで新しい学校づくりや子どもを育てることができるように考えてまいります。	無し	
151	29	4	市民意見	<全体を通して> 同じようなことを繰り返し買っているだけで具体策が書かれていないのでイメージしづらい	学校再編計画は、学校区を決めることがメインであり、ソフトとハードについては、方向性を示し、具体については来年度からの「学校施設整備基本構想・計画」で検討することになります。 全体の構成が分かるように目次の後に体系図を追加します。	体系図追加	目次の後ろ
152	30	3	その他	https://youtu.be/pmvlBkKqrtl 化学物質過敏症についての動画解説です。私は、症状有りませんが、計画の中に何も触れていないので、このような子どもが増えていることも理解して、対策必要です。給食有機栽培食材にすることで発症を抑えることもできます。国の有機推進政策も有るので、地元農家と協力して、地産地消で地域内でお金が回るような仕組みは必要です。災害対策としても流通距離が短いのは大切です。遺伝子組み換え食品は今、表示改正あり、識別が難しくなっています。今後ゲノム編集植物という新しい形で、流通してきます。そのような仕組みを理解した人材活用も給食調理担当には必要だと考えてます。 https://youtu.be/tW-4y4RiQyw 食材の安全についての動画です。 https://youtu.be/At4RR-N2vx0 有機給食の可能性解説です。	アレルギーについては、学校で既に対応しており、給食については、地産地消を大切にしています。	無し	
153	33	2	市民意見	子どもの成長は学校教育が始まった当初より2年程心身共に早くなっているのどう関係があるのか知りたいです	小学校6年、中学校3年という制度が始まった昭和22年から70年以上経過し、子どもたちの身体的な成長や精神的な成熟などが、当時より2年ほど早まっているというデータがあります。このようなことから、現在の区切りである六三制が子供たちにとって適切であるかを考え、新しい学校では、子どもたちの発達段階に合わせる事が可能な学校にしたいと考えています。	無し	

■ 未来の子どもたちのための新しい学校づくり計画（案） パブリックコメント 意見・回答一覧

通し	意見番号	項目	ご意見	回答	計画への反映	関連ページ	
154	37	4	その他	また、このような大規模校に少数の幼稚園児や保育園児が入学すれば、どのようなことがあるかは、考えられていません。昨年の市議選ではまったく争点になりませんでした。もっと、教職員を含めた丁寧な説明と話し合いを求めます。	学校再編計画策定委員会においても、幼児教育と義務教育との円滑な接続が協議されてきました。就学前の子どもたちがスムーズに学校に慣れることができるよう、「幼児教育との円滑な接続」をⅢ-2「目指す教育と施設の考え方」に追加します。	Ⅲ-2「目指す教育と施設の考え方」に「幼児教育との円滑な接続」などを追加	P10
155	37	5		冒頭部分に想定される未来の市の人口、児童・生徒数のグラフがあります。これから急速に子どもたちの数が減少することが分かります。だから学校再編はしなくてはならないと言いたげです。また、校舎の老朽化も進んでいるという表も載っています。しかし、8ページまで行くと「この学校再編は、学校の適正規模を保つために、小規模校を適正規模に統合することが主な目的ではありません」とあります。それで、この計画の意味がわからなくなります。	少子化の現状や校舎の老朽化は、学校再編の必要性の要因の一つであり、主目的は、子どもたちにとって望ましい教育環境を実現するためのものです。		
156	37	23		市は総務省が提出させた「公共施設等総合管理計画（公共施設を今の5割程度に減らす政策）」によって小中一貫校の計画を行っているのは明らかです。学校を再編すれば、国が校舎の建設費の50%をまかなうというものです。しかし、50%は市の負担となります。その資金を使って、老朽化した校舎は改修し、文房具や楽器、カバンなど教科書以外の教材を貸与したり、給食の無料化など保護者の経済的負担を支援することに使えば、子育てしやすい市として移住してくる家庭もあるでしょう。校舎の老朽化の問題も1964年開通した東海道新幹線はまだ現役です。安全性を常にチェックしているからです。学校の建築物もJRに見習って点検を怠らず使っていけばいいと思います。		無し	
157	48	1		学校再編計画について、ご提案します。 合併し再編された後の基本的方針で示された内容で、具体的な学校像が想像しにくいと思います。それにより今後の議論の出発点が、個々で違ってしまい、後に「そんなはずではなかった」ともなりかねません。 学校像について具体的なご提案ですが、「ユネスコスクール」の加盟を念頭に議論されてはいかがでしょうか。理念や基本的な行動が明確で、実践校などの情報から具体的な内容がわかりやすいと思います。国際理解・多様性・平和・地域など新設校が目指す学校像と重なる内容も多く、市が取り組む環境問題についても、子ども時代からの理解も期待できるのではないかと考えます。また、現在各校が掲げる教育目標とも重なる言葉や共通点が多く、SDGsへの取り組みやESDの具体的な学習など、ユネスコスクールへの加入は、地域の未来を生きる子どもたちに質の高い教育を提供することが可能で、教師の意識の向上も期待出来るかと思えます。以上、ご検討くださればと思いご提案します。 失礼ながら、ユネスコスクールについては以下のサイトでご確認願えればと思います。 ユネスコスクール 公式ウェブサイト、 https://www.unesco-school.mext.go.jp	新しい学校の具体的なコンセプトは、来年度から検討する「学校施設整備基本構想・基本計画」で学校ごと検討される予定です。 いただいたご提案は、今後の参考にさせていただきます。	無し	